

令和7年度 第1回横浜市創造界限形成推進委員会

次 第

日 時：令和7年5月30日（金）

15時30分～17時00分

場 所：横浜市役所18階 みなと4会議室

議題

- 1 創造界限拠点の事業評価
 - (1) 令和7年度の事業評価について
 - (2) 令和6年度の事業評価の確定について

- 2 その他報告事項
 - (1) 成果指標の測定に係る検討状況について
 - (2) 令和7年度の委員会について

資料

- ① 次第
- ② [資料1] 委員名簿
- ③ [資料2] 前回議事録（令和7年3月24日開催分）
- ④ [資料3] 令和7年度事業評価シート（Art Center NEW）
- ⑤ [資料4] 令和6年度事業評価シート（BankART1929、初黄・日ノ出町文化芸術拠点、象の鼻テラス、急な坂スタジオ、THE BAYS、）
- ⑥ [資料5] 成果指標の測定に係る検討状況について
- ⑦ [資料6] 令和7年度の委員会について

委員名簿

(敬称略)

氏名	所属団体(役職名)		出欠
恵志 美奈子	世田谷パブリックシアター 劇場部		出
◎ 岡部 友彦	コトラボ合同会社	代表	出
木村 絵理子	弘前れんが倉庫美術館	館長	出
宮尾 弘子	株式会社良品計画 営業本部	イデー事業・ディレクション部長	出
山家 京子	神奈川大学建築学部	教授	出
○ 六川 勝仁	馬車道商店街協同組合	理事長	

◎ . . . 委員長

○ . . . 副委員長

令和6年度第5回横浜市創造界限形成推進委員会会議録	
日 時	令和7年3月24日（月）13時02分～16時24分
開催場所	18階共用会議室なみき16
出席者	岡部委員長、六川副委員長、恵志委員、木村委員、宮尾委員、杉崎氏、菅野事業評価分科会議長
欠席者	野原副委員長
開催形態	一部非公開
議 題	<p>1 審議事項</p> <p>(1) 令和7年度事業計画について</p> <p>(2) 令和6年度事業仮評価について</p> <p>(3) 創造界限形成事業の評価指標について</p> <p>(4) 令和7年度の委員会について</p> <p>2 報告事項</p> <p>BankART1929 との連携について</p> <p>3 その他</p>
決定事項	
事務局	<p>【開会】</p> <p>○令和6年度第5回横浜市創造界限形成推進委員会を開催する。</p> <p>【部長挨拶】</p> <p>事務局 ○開会にあたり、文化芸術創造都市推進部長永井より挨拶。</p> <p>【資料確認】</p> <p>事務局 ○配付資料の確認。</p> <p>【定足数の確認】</p> <p>事務局 ○続いて、定足数について確認する。本日、木村委員と宮尾委員はオンラインで参加しており、6名中5名が出席しているため、委員会運営要綱第6条第3項により成立となる。なお、野原委員は欠席。</p> <p>六川委員は都合により2時半頃退室予定。</p> <p>また、事業評価分科会の菅野議長も審議事項(1)、(2)、(3)に関連してオンラインで参加している。さらに、審議事項(1)に関連して、各拠点ディレクターの皆様も出席している。</p> <p>【会議の公開・非公開】</p> <p>事務局 ○次に、本会議の公開・非公開について確認する。横浜市の情報公開条例第31条により、審議会等の会議は原則公開だが、例外が認められている。本日の審議事項(1)令和7年度事業計画のうち旧第一銀行に関する計画と、審議事項(4)令和7年度委員会の星川駅行政区画の活用方針については、同条例第7条第2項に規定の非開示情報が含まれているため、一部非公開と考えている。委員の皆様、よろしいか。</p> <p>(了承)</p> <p>【議事録について】</p> <p>○前回の議事録は資料2として配布する。</p>

事務局 事務局	<p>【拠点ディレクター紹介】</p> <p>○最後に、今回の審議事項(1)のオブザーバーとしてディレクターの皆様を紹介する。</p> <p>初黄・日ノ出町文化芸術振興拠点から山野様とハン様 象の鼻テラスから岡田様と大越様 急な坂スタジオから呉宮様と大平様 THE BAYSから山中様と矢野様 旧第一銀行横浜支店から鍵野様と竹内様 新高島地下1階展示施設から小川様</p> <p>ここから岡部委員長に進行をお願いする。</p> <p>審議事項（1）：令和7年度事業計画について</p>
岡部委員長	<p>○では、審議事項(1)令和7年度事業計画について、事務局から説明をお願いします。</p>
伊藤係長	<p>○今回、各拠点には令和7年度の評価シートを準備いただいているが、旧第一銀行と新高島の拠点についてはまだ内容を詰めている段階であるため、今回は事業計画の骨子を説明いただき、評価シートの内容については翌年度の委員会で審議する予定。</p>
岡部委員長	<p>○各拠点ディレクターから事業計画について説明をお願いします。</p> <p>初黄・日ノ出町の山野様からお願いします。</p>
黄金町	<p>○初黄・日ノ出町地区は、本年度と同程度の事業内容を検討している。</p> <p>アーティストインレジデンス事業では、長期・短期ともに増員を目指しているが、短期の海外アーティストの順番待ちが発生しているため、その受入れと新たな制作スタジオの入居者を増やす取り組みを行う。</p> <p>国際交流事業では、交換プログラムの希望団体が海外で増えているため、折衝を進め、既存の交換プログラム団体との関係性を深める。その他の海外協力団体は減る予定だが、今年度は海外カンファレンスへの出席が多かったため、その分を減らしている。</p> <p>展覧会・イベントでは、昨年は春と秋に黄金町バザールを実施したが、次年度は秋の1回を予定している。夏休みの子ども向けワークショップ「こどもバザール」も本年度と同程度の企画数を検討し、参加者数の増員を目指す。</p> <p>黄金町キッチンでは、現在週2回の運営をもう二、三団体増やす予定で、プロモーションを検討している。</p> <p>ブックバザール・カフェでは、日ノ出スタジオで古書店とギャラリーを継続的に運営し、書籍のオンライン販売の準備を進めている。</p> <p>カフェは新しい事業者が決まり、運営を進めている。</p> <p>バザールサポーターでは、活動回数は多かったものの、新しい参加者が増えない悩みがあり、次年度からガイドツアープログラムを検討している。</p>

	<p>岡部委員長</p> <p>象の鼻テラス</p> <p>岡部委員長</p> <p>急な坂スタジオ</p>	<p>地域との取組では、初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会の事務局運営と地域交流拠点の運営を年間で実施する。地域住民のトークイベントや紹介展示も行き、近隣小学校との連携も進める。</p> <p>施設の維持管理では、設備の老朽化に伴う改修を進める。</p> <p>広報・発信では、海外からの取材や視察に対応できるよう、多国籍の言語による資料作りやスタッフの育成を行う。</p> <p>企業連携では、京急百貨店との関わりが増えており、共催やポップアップへの出展などの相談に対応する。</p> <p>○質疑は最後に全体で行う。</p> <p>次に、象の鼻テラスの岡田さん、お願いします。</p> <p>○運営方針は「創造都市とにぎわいをつなぐ1年間」とした。</p> <p>創造都市20周年を迎え、次のステップを見据えた重要な年である。クリエイティブとにぎわいを結束させ、最大効果を図ることを目指す。管理運営業務では、観光インフォメーションを市民ボランティア中心に運営する。また、インバウンド対応を強化し、施設の適切な改修計画を進める。</p> <p>広報活動はSNSを中心に取り組むが、工夫が必要。来場者数はコロナ前に戻っている。</p> <p>文化芸術事業では、バレエプロジェクト、国際交流事業、ギャラリーシリーズを継続し、プロムナード沿いの壁面を展示スペースとして活用することを検討している。</p> <p>まちづくり・賑わいづくりでは、象の鼻パークでFUTURESCAPE PROJECTを継続開催する。市民参加とプロフェッショナルなアーティストの協働を通じて、新しい公共空間の活用方法を探る。</p> <p>市民にとって身近な事業として、毎週末マルシェ、ダンス縁日、ワールドミュージックを開催する。SNACK ZOU-NO-HANAも不定期に開催し、Tokyo Gendaiとの連携も進める。</p> <p>連携事業では、港南区と鶴見区と協働し、鶴見区でのパブリックアートプロジェクトを継続。フィンランドのオウルとの連携も視野に入れている。</p> <p>多様な市民参加として、スローレーベルとの取組を継続する。横浜市や他団体との協働も積極的に行う。</p> <p>カフェ運営では、ゾウノハナソフトが人気商品で、新メニュー開発に取り組む、より良いサービスを提供するために努力する。</p> <p>以上。</p> <p>○急な坂スタジオの呉宮さん、お願いします。</p> <p>○急な坂スタジオは令和7年度より大幅な体制変更を行う。現館長の加藤弓奈が退任し、新代表理事は大平勝弘、施設長は持田喜恵が務める。私は引き続きプログラム・ディレクターを担当する。スタッフの人員配置を見直し、柔軟で風通しの良い運営を目指す。</p>
--	--	---

		<p>令和7年度の事業計画について、専門人材の育成を中心にお話する。新体制のもと、上半期は運営の安定に注力し、舞台芸術の創造活動の支援と人材育成に取り組む。今年度は6年ぶりに新規サポートアーティストを募集し、国内外から92組の応募があった。その中から選出した橋本真那（ダンス）と集団ヒナワタ（人形劇）と協働する。</p> <p>創り手と書き手の交流プロジェクトも次年度の実現を目指す。異なる専門性を持つ人材が集まり、学び、交流する場として機能させる。オープンスペースの活用も視野に入れている。</p> <p>創造環境の整備と活動の支援では、相談窓口の設置や利用料の減免など、キャリア形成期や転換期にある人材を重点支援する仕組みを検討している。スタジオの稼働率向上を目指し、貸出し制度や予約システムを見直す。</p> <p>急な坂スタジオで創作された作品が国内外で発表され、新たな価値を生み出すこと、アーティストやスタッフが長期的に活動を継続できる環境を整えることが使命である。発表や上演の機能を持たないため、市内の他機関や施設と積極的に連携し、人と知の循環を生み出す。市民が文化芸術に触れる機会の創出にも取り組む。学校向けワークショップや職業体験の受入れ、教育普及事業を通じて、次世代を担う子どもや若者が多様な文化芸術を体験し、理解を深める機会を提供する。</p> <p>岡部委員長 ○THE BAYSの山中さん、お願いします。</p> <p>THE BAYS ○THE BAYSの報告は私、矢野からさせていただく。 まず、社内の話になるが、THE BAYSを管轄する部署が変わったので、先に紹介させていただく。</p> <p>THE BAYS ○THE BAYSの担当をさせていただく、野球普及・振興部の部門長となった山中です。本日は何とぞよろしく申し上げます。</p> <p>THE BAYS ○引き続き窓口は私が担当する。 令和7年度の計画についてお話する。本拠点における創造的人材及びクリエイターは、アーティストや芸術部門にとどまらず、スポーツを通じて都市のにぎわいや創造性を喚起する多様な属性の人々と位置づけている。</p> <p>事業報告シートの令和11年度に目指す姿に向けて、令和7年度では以下の2つの目標事業方針を立てた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールアカデミーによる人材育成プログラムの拡大 ・様々な連携先とのコラボ商品や企画の増加 <p>評価軸として、多様性とバリエーションに関して2つの軸を設けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材の集約・育成のきっかけづくり： 小学生から大人までスポーツビジネスに触れるステップアップの軸を作る。 <p>大通り商店街や関内外の企業と連携して運営する。</p>
--	--	---

		<ul style="list-style-type: none"> ・横浜のまちにしみ出す： 試合日以外の観光ツアーや創造界限拠点を生かすイベントを企画する。 波及効果・インパクトとして、以下の3つの軸を立てている。 <ul style="list-style-type: none"> ・ +Bショップ： 他球団やNLBとのコラボを増やし、新規顧客を狙うためにアーティストやキャラクター、作家とのコラボを増やす。 ・ &9レストラン： 季節ごとの施策を広げ、球場とのイベントとのコラボを行い、オープンテラスを活用する。 ・ 地下1階スタジオ： スクール事業グループが運営し、子ども向けレッスンや大人向けヨガプログラム、ランニングプログラムを増やす。 <p>詳細の回数は事業報告書に記載している。</p>
<p>岡部委員長 新高島駅</p>		<p>○新高島駅地下1階展示施設の報告を小川さん、お願いします。</p> <p>○新高島駅地下1階展示施設を運営する一般社団法人Ongoingの小川です。</p> <p>まず、スペースの名前であるが、Art Center NEWという施設名になった。4月1日にプレスリリースで公表する。私どものスペースも4月1日から施工が始まり、4月は通路側、5月からはBankARTさんが使っていたギャラリー部分の施工を行い、2か月間でオープン準備を進める。</p> <p>5月31日に内覧会を開催し、6月1日から1か月半、オープン記念の展覧会を企画している。作家たちも決定し、準備を進めている。</p> <p>8月は音楽ライブやパフォーマンス、映像上映などの単発イベント月間を企画している。9月はTokyo Gendaiさんの開催と同時に、Art Center NEWでもアートフェアを企画している。東アジア、東南アジアのオルタナティブスペースを招き、アートフェアを開催予定である。ただし、Tokyo Gendaiさんから「アートフェア」という言葉を使わないよう指示があり、実際はアートフェアであるが、別の名称で開催する。</p> <p>10月は、大学卒業後15年までの若手作家と中堅以降の作家の公募展を同時開催する。11月はゲームをコンセプトにした展覧会を企画中で、みなとみらい21のゲーム企業との協賛や共催プログラムを検討している。12月はYPAMが使用予定で、1月から3月は大学の卒業展として使用する予定。</p>
<p>岡部委員長</p>		<p>○ここから質疑応答と意見交換に移る。審議事項(1)について、ご質問やご意見があればお願いします。</p>
<p>六川副委員長 黄金町</p>		<p>○まず、初黄・日ノ出町のカフェの営業時間はどのような感じであるか。</p> <p>○基本的には日中の11時から18時までの営業時間である。</p>
<p>六川副委員長 黄金町</p>		<p>○広報の発信についてであるが、対象はどこに向けて発信しているか。</p> <p>○基本的にはSNSでの発信がメインで、特にInstagramに重きを</p>

		置いている。若い方や海外のアートに関心がある方に向けて発信している。
六川副委員長		○象の鼻テラスの利用者が増えているとのことだが、トイレ関連の改修工事は計画されているか。
象の鼻テラス		○トイレは、頻繁に小さな故障が続くため、対処療法的に対応している。その他、施設の裏側で雨漏りの問題もあり、対応をお願いしている。市の財政の協議の中で優先順位をつけて進めている。
六川副委員長		○ダンス系が結構コラボレーションしているが、どこかの先生とコラボしているのか。
象の鼻テラス		○現在、フランクフルトで活動してきたダンサーの安藤洋子さんをインストラクターとして、ワークショップを継続的に開催している。本来であれば、成果発表の機会も持ちたいのだが、施設の性格上難しい点や費用の問題がある。
六川副委員長		○分かりました。あと、THE BAYSについてであるが、スポーツタウン構想の一環として期待されている。いろいろなコラボレーション企画があるようだが、主催ゲームというのは年間60ゲームしかないのではないか。
THE BAYS		○70ゲーム。
六川副委員長		○70ゲームか。それ以外のところとおっしゃっていたが、音楽のイベント等、いろいろ構想は、過去の経験も含めて持っているのではないかと。三井不動産の新しい施設とのリレーション等も考えているか。
THE BAYS		○ベ이스ターズとしては、THE BAYSとどこまで一緒にできるかを検討している。イベントのアウトプット先としてTHE BAYSの場を使うことなどを考えている。
六川副委員長		○話が変わるが、「あぶない刑事」のフィルムコレクションであそこを使ったことがある。知っているか。
象の鼻テラス		○いえ、知らない。
六川副委員長		○「あぶない刑事」は見たか。
象の鼻テラス		○見ていない。
六川副委員長		○見ていないのか。そういう発信もある方向であってもいいのではないかと。思う。
THE BAYS		○撮影にも結構使われるので、うまくPRできたらと思っている。
六川副委員長		○分かりました。私からは以上である。
恵志委員		○フォーマットの話で、今年新しく事業評価シートを共通フォーマットにしたということだが、各位の書きぶり違う感じになっている。象の鼻テラスが柱を左側に追加して新しく立てているようなものが必要かもしれない。アクティビティの捉え方で書き方が変わってしまっている。 共通のフォーマットをつくる目的は評価を全体的に見やすくすることだが、有効になっていない。事務局で調整し、次年度の最後の評価の

		<p>ときには、同じような柱の立て方と見え方にして欲しい。事業計画案は詳細が分かるとしても、この表で軸と成果が分かるようにして欲しい。</p>
野口課長		<p>○承知しました。おっしゃるとおりかと思う。我々もまずは一旦つくってみるといところで今日に至ってしまった。改めて全部を見通して、恵志委員がおっしゃるとおりかと思うので、この後もう少し調整しながら年度を進めてまいる。年度末にはできるだけ合うようにしたいと思う。</p>
岡部委員長		<p>○今、黄金町さんとTHE BAYSさんが、THE BAYSさんは試合以外のときに色々やろうとしているという話の中で、ツアーがあると思うが、それぞれどんなツアーか。</p>
THE BAYS		<p>○まだ詳細は詰められていないが、過去にはTHE BAYSをスタートとして象の鼻テラスまでランニングし、そこでヨガプログラムを行い、走って帰ってくるプログラムを実施していた。試合日の需要が高かったためそちらに注力していたが、安定してきたので各拠点回るランニングプログラムと組み合わせて実施したいと考えている。</p>
黄金町		<p>○もともとサポーターのまち歩き班が日ノ出町から黄金町間のまち歩きをしながら、まちの歴史や湧水の説明をするガイドツアーを行っていたが、コロナ禍で中断した。中心だった方が高齢になったため、新しい人を増やし、語り継いできたまちの歴史をみんなで継承するガイドツアーを考えている。まちの歴史やアートを案内するツアーもサポーターの興味関心に沿って考えている。</p>
岡部委員長		<p>○令和7年度の事業計画の中で、ツアーが幾つかあり、発信の仕方を黄金町は得意だと思うが、THE BAYSと黄金町が同じような発信の仕方を事務局側でも考える必要があると思った。Art Center NEWの営業日や休館日のイメージはあるか。</p>
新高島駅		<p>○水木を休みにし、横浜美術館の休館日に合わせて週休2日にする予定である。</p>
岡部委員長		<p>○オンラインの木村委員、宮尾委員はいかがか。</p>
宮尾委員		<p>○各拠点の細かい話でも大丈夫か。質問や意見は全体を通してという意味か。</p>
岡部委員長		<p>○どちらでも大丈夫である。</p>
宮尾委員		<p>○先ほど少し話に出た広報活動についてである。それぞれの活動の目的や内容が違うので、全く同じ発信は必要ないと思うが、連携することがあれば広報戦略を共有し、相互送客を狙うべきだと思う。例えば、象の鼻テラスのSNSの話が出たが、ブランディングとして場所の特徴や目指すことをしっかり発信し、コンテンツの発信方法を相互送客することが重要である。事業計画の先にそういったことを皆さんが用意していると思うので、連携して盛り上がりを創出できるのではないかとと思う。</p>

木村委員	○宮尾委員と似た印象であるが、Art Center NEWの事業計画について、ターゲットに想定している主な利用者層と、それに対する広報計画について教えていただけるか。
新高島駅	○ありがとうございます。基本的には20代、30代のアート、芸術、文化に興味がある層に響く広報を考えている。SNSを中心に広報活動を行い、若者向けや子ども向けのワークショップ、ブックフェア、マルシェなどを企画している。最初の展示会は現代アートを紹介するもので、20代、30代をターゲットにしている。企画によって広報の対象を変えていく予定である。
木村委員 永井部長	○ありがとうございます。一旦私のほうからは以上である。 ○広報関係は強化すべきという意見があり、創造都市全体のパンフレットを作成中である。個別のPRも重要であるが、全体で示すことも重要なので、効果的な広報をしていきたいと思う。 そういったことでも周知を図りたいと思っている。個別のPRも重要であるが、全体で示すことも重要なので、効果的な広報をしていきたいと思う。
杉崎氏	○オブザーバーの杉崎です。 まちづくりの視点で質問する。THE BAYSについてであるが、旧市庁舎との開発や大通り公園の開発も決まっている。大通り公園、旧市庁舎、THE BAYS、象の鼻は緑の軸線と海までの軸線でつながっているの、その連続性における役割についてどう考えているか
THE BAYS	○山中から回答する。DeNAベイスターズ、本社のエリアマネジメント部隊、横浜スタジアムの3者で定例会議を設け、情報共有を進める。まちのにぎわいをつくる動線を目的に情報交換と創発の場所を用意する。具体的なスケジュールや内容は未確定であるが、進捗があれば共有する。
杉崎氏	○ありがとうございます。岡田さん、象の鼻との連携をお願いします。
象の鼻テラス	○はい。
杉崎氏	○黄金町についてであるが、大岡川、中村川の運河の活用が動き始めている。これまでは初黄のエリアに栈橋があり、先駆的に実験プログラムやアートプロジェクトを行っている。水辺の活用について、黄金町としてどう考えているか。
黄金町	○SUP倶楽部や川の駅運営委員会が栈橋の管理をしている。川辺にアート作品を並べるなどのアプローチはまだであるが、昨年からは運河チャレンジというイベントを行い、地域の運営団体との連携を強めている。
杉崎氏	○重要な取り組みなので、ぜひ推進してほしい。
岡部委員長	○教えてもらいたいのであるが、各拠点で連携しているか。意見交換や情報交換の場はあるか。
象の鼻テラス	○かつてはディレクターズミーティングで情報共有をしていた。課題を共有できる場であったが、今後どうするか考えている。風通しがよく

		なり、古いクリエイティブシティ・ヨコハマのことを知っている人たちにとっては重要であるが、新しいプレーヤーには何のことやらという部分もあるので、共有しながら解を出す機会が必要である。
岡部委員長		○初めからある拠点と新たな拠点、企業が入っているので、風通しを考える必要があると思う。
六川副委員長		○委員長がおっしゃるように、過去にはディレクターズ会議で施設間のコミュニケーションを図っていたが、自然消滅してしまった。どこかが主導しないといけないと思うが、市ではないので、象の鼻が主導するなどのきっかけづくりが必要かもしれない。新しいメンバーも入ってきたし。
象の鼻テラス		○委員会の顔ぶれも刷新されたので、委員の方々とも情報交換したい気持ちがある。
岡部委員長		○もちろんである。その場に僕らも行ければいいと思うので、検討してほしい。
野口課長		○我々もその場があったほうがいいと思うし、次のトリエンナーレに向けても拠点との連携を強化したいという話も出ているので、市が音頭を取るか拠点が主導するか、相談させてほしい。
岡部委員長		○では、審議事項(1)について了承ということできたいと思う。各拠点のディレクターの皆様、本日はありがとうございました。 (拠点ディレクター退室)
六川副委員長		○評価シートの話であるが、もう少しシンプルにしようという話があったような気がする。計画にはいろいろ書き込んでいただいているが、評価シートは項目も増えて、もっとシンプルにしたほうがいいと思う。クリエイティブシティ・ヨコハマのことを分かっている人がどのくらいいるのか。中田さんのときの施策で、市長も代わっているので、これを基に施設が運用されてきた経緯がある。クリエイティブシティ・ヨコハマはいい言葉だと思うが、いつの間にか創造界限何とかという言葉に変わってしまい、わけが分からなくなってしまった。拠点がまさしくここにあるので、運営されている方々がどの程度理解しているのか気になった。
野口課長		○分かりました、ありがとうございます。その辺も共有していく。評価シートも一旦つくってみたが、難しいところもあった。実際事業を進める中で見直しや、来年度に向けて適宜修正を加えながら進めたいと思う。
永井部長		○我々としては、何のためにこの創造都市施策をやっていて、創造界限拠点はそれぞれ役割、機能も違うが、何のためにやっているのかを明確にしたい。ぼけてしまうと好き勝手なことをやってしまうので、横浜市から補助金も出している以上、共通理解を持って事業を進めてもらいたい。細かくなり過ぎると見えなくなるので、共通の理解をしつ

岡部委員長	<p>かり押さえつつ、もう少し考えていく必要があるかもしれない。</p> <p>○細かくなると細かい質問になって、本質を見失いそうである。簡略化された資料があったほうが、クリエイティブシティの本質的な議論に近づくかもしれない。</p>
永井部長	<p>○今年度から拠点ごとの分科会を廃止し、本委員会で評価シートを見ていただき、評価していただき、事業計画も確認いただく流れにした。それぞれ委員の皆様を担当の拠点を持っていただくので、細かい話をやりつつ、集約する形で本委員会では全体の話をする役割分担ができると思う。</p>
恵志委員	<p>○表にアウトプットの数値目標等が記載されていると、情報が多くなり読み取りにくくはなるが、アウトプットやアウトカムを数字で把握するのも重要だ。削って簡素な表にすると後から、数値の表も別に欲しいということになりかねない。情報が多くなっても数値を入れて1枚の表で一元管理できる方が良いと思う。削るよりも、細かくなってもわかりやすい表の形を検討するのはどうか。具体的には柱立てがされていればいいと思う。御検討ください。</p>
野口課長	<p>○ありがとうございます。</p>
<p>審議事項（2）：令和6年度事業仮評価について</p>	
岡部委員長	<p>○では、審議事項(2)令和6年度事業仮評価について、事務局から説明をお願いします。</p>
伊藤係長	<p>○今年度の評価シートに関しましては、既に拠点の皆様へ実施結果と自己評価を御記入いただき、その上で事業評価分科会で議論を行った。事務局が意見をまとめ、委員会評価と総評に反映している。本日は、委員会評価のポイントを絞って説明する。</p> <p>BankART1929について、次年度の運営事業者としては不採択となったが、クラウドファンディングにより事業継続と退去を同時に実施できる見込みである。ネットワークの蓄積が支援を得る要因となった。創造性／政策達成評価では、周辺企業や地域とのネットワーク構築が進み、連携企業や団体が増えている。総評として、創造都市政策のフロントランナーとして横浜のイメージを築き上げたことを高く評価している。</p> <p>初黄・日ノ出町文化芸術拠点について、外国人スタッフの採用や専門業種の人材の多様性が評価されている。創造性／政策達成評価では、海外で評価された若手アーティストを受け入れ、交流国が広がっている。地域や企業等と連携した事業運営では、イベント開催やワークショップを通じて地域にアーティスト市民が生まれている。産業の振興が暮らしやすいまちづくりへの持続的な展開では、NPOの取組により地域の担い手が育っている。総評として、AIRの拠点として海外から高く評価され、世代交代後も事業が途切れずに発展することを期待している。</p>

		<p>象の鼻テラスについて、安定的な運営が評価され、観光振興にも寄与している。創造性／政策達成評価では、パブリックスペースの活用が進化し、都心部へのアプローチが評価されている。総評として、質の高い取組と郊外部でのプロジェクト展開が評価されている。</p> <p>急な坂スタジオについて、安定した運営を目指し、稼働率が戻らない原因を調査することが提案されている。創造性／政策達成評価では、情報発信を活発にし、舞台技術情報が集まる場所になることを期待している。総評として、新ディレクターへ交代し、若手サポートアーティストの育成に注目している。</p> <p>THE BAYSについて、スポーツ×クリエイティブのテーマで文化財を活用し、認知向上につながったことが評価されている。創造性／政策達成評価では、スポーツ×クリエイティブの展開や他の拠点との連携が期待されている。総評として、現在のニーズに合った取組が評価され、クロスインダストリーな取組や公共空間の活用が期待されている。説明は以上である。</p> <p>岡部委員長 ○本日は、事業評価分科会の菅野議長にも御出席いただいているので、何か補足があればお願いします。</p> <p>菅野議長 ○2月17日に開かれた委員会で議論した結果を反映している。今年度までの評価の視点や書きぶりが統一されていなかった点もあったが、おおむね高い評価を得ている。ただ、急な坂スタジオについては資料がそろわず、後日各委員に資料が送られコメントをいただく形になった。来年度の事業についても説明があったが、令和6年度までの各拠点の運営団体の尽力に敬意を表する。課題としては人材確保、資金調達、施設の維持管理などがあり、引き続き助言と支援をお願いしたい。特にBankART1929については、創造都市横浜を象徴する存在として約20年にわたり活躍してきた。クラウドファンディングで1000万円以上を達成しており、今後も横浜市と連携した活動を期待している。令和7年度からの評価シート及び創造界限形成事業の評価指標のロジックモデルが整理され明確になったが、最終形ではないため、各拠点、担当委員、横浜市と達成目標を共有しながらさらに練り上げていく必要がある。情報共有、成果の共有、発信力の共有のための話し合いも重要である。新しい団体も参加し、バラエティーに富んだ事業が展開されることを期待している。創造拠点のブランディングとして、スローガンやキャッチコピーを共有し、事業方針を団体と横浜市で共有する仕組みが必要である。</p> <p>岡部委員長 ○質疑、意見交換に移る。審議事項について、御質問、御意見等があればお願いします。</p> <p>恵志委員 ○今年度を振り返り、委員は評価だけでなく、相談役的な役割も担う必要があると感じた。拠点で何かあったときに第三者として委員に相談しやすい仕組み、委員が相談に乗りやすい仕組みが重要だと思った。</p>
--	--	---

岡部委員長	担当が振り分けられることで解決につながることを期待している。○ ありがとうございます。これはこの後の話で。
野口課長	○おっしゃるとおり担当制にさせていただいて、コミュニケーションを取れるような形にできるといいと思っている。
岡部委員長	○前年度まではこれを基にディレクターの方々がプレゼンしていた。
野口課長	○前年度までは、拠点ごとに分科会が設定され、じっくり議論されていたが、今年は経過措置で取れなかったため、来年から改めて仕切り直しを行う。
岡部委員長	○木村委員、宮尾委員、いかがか。
宮尾委員	○この後の審議事項を伺った後で話したい。
木村委員	○私のほうも大丈夫である。
岡部委員長	○ありがとうございます。それでは、特に問題がなければ、審議事項(2)について、了承とする。
	審議事項(3)：創造界限形成事業の評価指標について
岡部委員長	○次に、審議事項(3)創造界限形成事業の評価指標について、事務局のほうから願います。
伊藤係長	○よろしく願います。お手元の資料5を御覧ください。昨年8月に第1回分科会を開催し、来年度の事業評価手法や評価シートの見直しを議論した。その後、委員会で2回議論し、本日準備したアジェンダとして、創造都市施策の目指す姿、ロジックモデルの整理、KPI の案について説明する。目指す姿については、社会課題の解決を目指し、にぎわい創出と地域コミュニティの活性化を重点課題としている。ロジックモデルでは、体験者の増加、遊休地の活用事例の増加、創造産業の増加を軸に整理した。市民や来街者の目指す姿として、創造的活動への興味・関心の広がり、他者との対話や交流機会の増加、活動の担い手としての意識の芽生えを挙げている。拠点の目指す姿として、新しい取組の実施、次世代のネットワーク形成、異分野との連携、遊休地の活用を挙げている。重点項目として、他者や地域とのつながりの増加、持続的なにぎわいの増加を重視する。KPI の案として、市民・来街者のアウトカムには認知率、訪問意向率、来場者数、推奨率を、拠点のアウトカムには異分野との連携企業やプログラムの数、遊休地の活用事例数、総来場者数に占める初来場者数の割合、公費の割合、民設民営の拠点の数、プロジェクトの実施数を設定している。説明は以上である。
野口課長	○1点だけ補足させてほしい。最後のKPI の案について、独自調査は横浜市が一括で行い、各拠点には来場者数等の集計のみ協力をお願いする予定である。過度に拠点の負担にならないように考えている。
岡部委員長	○ありがとうございます。先ほどと同様で、事業評価分科会の菅野議長もいらっしゃるの、補足や御意見をいただければと思う。
菅野議長	○先ほどコメントしたが、数値的な目標や達成目標が明確になり、KPI も

	<p>明確になっている。独自調査で横浜市の負担が増えるかもしれないが、文化芸術活動なので、数字が独り歩きしないように定量調査とナラティブ評価を重視し、プロセス評価もモニターして結果だけを見ないようにしていただきたい。数字だけで判断しないように、定性評価も勘案して練り上げてほしい。</p>
岡部委員長	<p>○では、質疑、意見交換に移る。皆様いかがか。1つ質問がある。ロジックモデルの市民、来街者は拠点に来ている人たちに対してか、それとも拠点以外の全ての人たちか。</p>
野口課長	<p>○市民の中でも、創造的活動への興味関心の裾野を広げたいという趣旨である。逆に創造的活動、担い手としての意識が芽生える部分は、既に何かしていてもっと自分でもやりたい人たちを対象にしている。</p>
岡部委員長	<p>○最終アウトカムが行動やアクションを生み出すために拠点が何をするかということだと思っていたが、拠点は拠点であるのかという見方もあるのかと思った。</p>
野口課長	<p>○創造限界拠点事業のモデルなので、拠点があることよっての効果全体にかかっている。市民、来街者の欄も拠点があることよってこうなるというイメージである。</p>
恵志委員	<p>○個人が自分の行っている創造的活動をどう捉えるかが重要である。創造的活動をしている市民という意識のムーブメントが起これないと、ただの体験になってしまう。創造都市の全体像を強く打ち出す必要があると感じている。</p>
岡部委員長	<p>○確かに難しい。</p>
恵志委員	<p>○難しいところであるが、卵が先か鶏が先かのような問題である。</p>
伊藤係長	<p>○これまで創造的活動というとアーティストやクリエイターの活動という印象が強かったが、市としてはもっと幅広いものと再定義し、拡張させる必要がある。自分の行為がクリエイティブだと実感してもらう手法については、委員会の皆様と意見を出し合いながら考えていく必要がある。</p>
木村委員	<p>○今のお話私のほうからもいいか。ロジックモデルを見ながら考えていたが、シビックプライドの向上が創造都市施策の目指す姿の1つだと思う。市民が創造的活動に関与する際、まずは消費者として質の高い消費を選択し、能動的に消費することが重要である。全ての人々がクリエイターになる必要はなく、様々な選択肢を知り、プロフェッショナルな人たちと関わることでまちの豊かさが生まれる。市民や来街者が能動的にアクションを起こすことを過剰に評価するのではなく、創造的活動がどれだけ市民に認識されているかをチェックすることが重要である。全ての人々がクリエイターになる必要はなく、能動的に選択できる社会がウェルビーイングの向上につながる。拠点がプロフェッショナルやセミプロフェッショナル、若いクリエイターを定着させ、外から迎え入れることで都市のプレゼンスが向上する。拠点と我々が</p>

	<p>認識を共有し、評価に盛り込むことが重要である。</p>
岡部委員長 伊藤係長	<p>○確かに全員にアクションを強いる必要はないと思う。</p> <p>○木村委員の御指摘のとおりである。アーティストやクリエイターになることを目指すのではなく、日常の行動が創造的活動だと気づいてもらい、生活が豊かになることが重要である。それを支える人材も定着させ、次の世代を育てる必要がある。</p>
岡部委員長	<p>○クリエイティブな消費者やアクションをする人の具体的なイメージを共有する必要がある。例えば、ももいろクローバーZのファンが宿をきれいにして帰るといった価値観はクリエイティブな行動の一例である。</p>
恵志委員	<p>○消費者としての市民がアートを体験することから物を創造することまで、創造的活動の捉え方が重要である。シビックプライドが上がることでまちの価値を高め、横のつながりを生むことにつながる。各拠点の人たちに創造的活動が人を変える効果を出してもらい、市でまとめることもいいのでは。</p>
宮尾委員	<p>○先ほど事務局から、創造界隈の活動を理解していただけるようなパンフレットを作成中という話があったが、具体的にはどんなイメージ、スケジュールで考えられているか。</p>
野口課長	<p>○実はもう市の職員側で編集が終わり、印刷に出している状況である。3月中には印刷物として上がってくる。</p>
宮尾委員	<p>○なぜ聞いたかという点、創造界隈拠点のブランディングや市民への伝え方の骨子がパンフレットに入っていると、議論がクリアになると思った。</p>
野口課長	<p>○ありがとうございます。画面共有しているのを御覧いただけるか。企業や他都市の視察をイメージして、事業の概要や各拠点の中身を説明するパンフレットである。全12ページで、BtoB寄りの冊子である。市民向けにはもう少しかみ砕いたものを来年度検討する。</p>
宮尾委員	<p>○ありがとうございます。こういうものをつくるゴールがあると、言語化もしやすく、結論がつけやすいと思った。</p>
伊藤係長	<p>○ありがとうございます。現時点では細かい目標値は議論できていない。スケジュールとしては、5月中旬に第1回委員会を開催し、調査の概要を進め、6月以降に調査を実施する予定である。過去のデータを踏まえた目標値を設定する。</p>
宮尾委員	<p>○それらの数字は各拠点に共有されているか。</p>
伊藤係長	<p>○横浜市の結果は公開されているが、どのレベルまで共有されたかは不明であるが、調べれば分かる状況である。</p>
宮尾委員	<p>○分かりました。担当拠点を持つ際にデータが欲しいと思い質問した。</p>
杉崎氏	<p>○市民、来街者という言葉がぴんとこない場合、生活者という言葉を使うと分かりやすいかもしれない。生活者が主語になると、最終アウトカムの一部はフィットするが、他の部分は整理が必要である。創造都</p>

	<p>市施策の評価は他の政策と区別できるようにする必要がある。拠点の変化については、協働型やプラットフォーム型の評価が重要である。プロデューサーやコーディネーターの役割を理解してもらう必要がある。インプットの段階で公共空間活用などを設定しないと、アウトカムにつながらないので、事業計画での設定が重要である。</p> <p>議論が整理され、ようやくこういう議論ができるようになったと感じる。</p>
岡部委員	○拠点だけの評価ではない委員会にしていく必要がある。もとの20年前の委員会のように。
杉崎氏	○ただ、10年間ぐらいはそういう形であった。
野口課長	○創造界限形成に関する議論を行う委員会である。創造都市施策と創造界限形成は別々に考えられており、形成部分を議論する場が委員会の趣旨である。政策の議論も可能であるが、所掌範囲は慎重に検討する必要がある。
杉崎氏	○次年度は前段の話を盛り込むべきであると思う。現状では拠点の存在だけを示しており、具体的なアクティビティやシビックプライド、ウェルビーイングへのつながりが見えない。ロジックモデルを深掘りし、次年度に向けて改善する必要がある。
	これは拠点の当事者性の部分で、拠点プラス横浜市とすると、またちょっと違う形になる。
岡部委員長	○確かにそうである。拠点だけではないと僕も思っていた。
杉崎氏	○拠点だけだとできないことが多いので、拠点プラス横浜市がコラボレーションして目指す部分が下段にある。当事者性を少し変える、表現を加えることで見え方が変わると思う。
岡部委員長	○また御議論いただければと思う。では、皆さんよろしいか。
宮尾委員	○今の話だが、次年度と言わず、今からやれないものか。
岡部委員長	○あと数日。
野口課長	○あと1週間ぐらいである。
宮尾委員	○次年度のいつまでにやるかを決めるのはどうか。皆、やったほうがいいと思っている。拠点の方々も大変だと思うので、委員も含め汗をかって早めに一緒にやれたら良いのかなと思ったが。
野口課長	○分かりました。現実問題を言うと、郊外展開で市民の方と直接会うような場面で必要性をいつも感じる場面はある。恐らくそれが発生してくるだろう夏ぐらいには仕上げたいなという気持ちはございますので、ちょっと頑張ってまとまれば、最初の委員会で御相談させていただければと思う。いかがか。
宮尾委員	○何かできることがあれば一緒にやっていきたい。
野口課長	○ありがとうございます。
岡部委員長	○では、審議事項(3)については了承としてよろしいか。

(了承)

岡部委員長	○では、了承とする。菅野議長がここで御退席ということである。ありがとうございます。
菅野議長	○ありがとうございました。どうぞ皆様よろしく申し上げます。失礼する。
岡部委員長	○では、5分休憩 (休憩)
	審議事項(4)令和7年度の委員会について
岡部委員長	○では、再開する。では、審議事項(4)令和7年度の委員会について、事務局から願います。
伊藤係長	○まず、分科会の審議に係る意思決定方法について説明する。現行のルールでは、横浜市の委員会運営要綱第7条第3項により、分科会のみでは意思決定を行うことができず、委員会の議決が必要である。来年度から委員会の負担が増加することが予想されるため、分科会での決定事項を委員会の意思決定とみなすように見直しを検討している。具体的には、委員会が事前に承認した場合、分科会での決定をそのまま公募に進めるプロセスに変更する。改正内容として、「事前に委員会から承認を得た場合は、委員会の審議を経ることなく意思決定を行うことができる」という規定を追加する。以上である。
岡部委員長	○ありがとうございます。それでは、皆さん、質問や意見があれば願います。意見や質問がなければ、次に進みたいと思うが、よろしいか？ (了承)
岡部委員長	○では、了承とする。次に、令和7年度の委員会体制について事務局から願います。
伊藤係長	○令和7年度の委員会体制について説明する。 年度の体制であるが、今年度で野原委員が退任されるため、後任として神奈川大学の山家先生が就任する。また、拠点の担当制については、正副の担当で実施し、委員の専門性を踏まえた分担とする。郊外部展開については、岡部委員長を中心に各委員の専門性に依拠して相談する。担当の主な業務として、上半期の進捗や課題を議論する中間振り返りと、年度末の振り返りと来年度の計画を議論する2回の会議を予定している。来年度のスケジュールは以下の通りである。: 5月：令和6年度の事業評価の確定、新高島の評価シートの確定、象の鼻の活用方針の議論、調査の概要報告。 8月：星川の運営事業者の決定、旧第一銀行の評価シートの確定、調査結果の速報、急な坂のサウンディング調査の概要説明。 11月：中間の振り返り、調査結果の報告、象の鼻の運営事業者の決定、急な坂サウンディング調査の結果報告。 3月：今年度の振り返りと来年度の計画の承認、事業全体の評価。 以上である。
岡部委員長	○ありがとうございます。では、質疑・意見交換に移りたいと思う。ご

	意見がある方は挙手をお願いする。
宮尾委員	○委員の正と副の役割イメージはどのようなものか。
伊藤係長	○基本的には正の委員が中心となって拠点に足を運び議論するが、複数の視点を取り入れるために副も割り当てている。
宮尾委員	○正副2人で事業者とミーティングを重ねるのはスケジュール調整が大変であり、正の委員が1人で向き合う方が動きやすいのではないかと思う。皆さんの意見を伺いたい。
岡部委員長	○正の委員が担当として話したり助言したりする。
宮尾委員	○副の役割が曖昧だと気を遣うので、クリアにした方が良いかもしれない。
恵志委員	○私は急な坂を担当していたのでよく分かるが、複数の拠点を知ることによって横の連携がしやすくなると思う。
宮尾委員	○了解した。ありがとうございます。
木村委員	○担当拠点の視察・ヒアリング・助言のタイミングや頻度はどのくらいを想定しているか？日常的な活動を視察するために、拠点から直接案内をもらう方が良いのではないか。視察時にディレクターと話すことも含めて考えて良いか？
野口課長	○年度末の自己評価に関する拠点と委員との議論はオフィシャルになるが、それ以外は適宜必要に応じたコミュニケーションを取っていただければと思う。委員には拠点から直接案内が行くルートを作り、全拠点のイメージは横浜市から定期的にお届けする。担当拠点以外でもタイミングが合えば足を運んでいただくとありがたい。
伊藤係長	○報酬の支払いについては、委員会で意思決定された視察に対してのみ支払いが可能である。その他の視察には報酬を支払うのは難しい状況である。
岡部委員長	○オフィシャルな視察の頻度についてであるが、正の委員が基本的に受け持ち、副の委員は比重を抑えめにするという感じであるか。やってみて調整する形になるかと思う。
恵志委員	○正でも副でも仕事は仕事として整理されているということか。
宮尾委員	○正の委員がしっかり絞り込んで担当し、年に4日の委員会以外に分科会で情報交換する形が良いと思う。オンラインでも可能である。
岡部委員長	○頻度の問題。
宮尾委員	○関わってきた期間によって理解度が違うので、まず1つの拠点をしっかり知り、委員同士で情報交換する形が良いと思う。もちろん、やりながら調整しても良い。
岡部委員長	○正副の役割についてであるが、基本的には正の委員が拠点とコミュニケーションを取ることを最優先し、打合せの日程が決まったら副の委員にも情報共有し、可能であれば参加してもらいたい形が良いのではないかと思う。
岡部委員長	○そのほうが実現可能性が高まりそう。

宮尾委員	○了解した。
伊藤係長	○拠点が実施しているイベントや情報については、副の委員にも案内が届くようにする。
岡部委員長	○まずその体制で進め、問題があればまた変更する形でのよろしいか。 (了承)
岡部委員長	○ありがとうございます。では、こちらの形で進める。他にご意見がなければ、本件は了承とする。 (報告事項：BankART1929との連携について)
伊藤係長	○続いて、報告事項としてBankART1929との連携について事務局より説明します。BankART1929は、横浜市が創造都市施策をスタートした20年前に現代アートの風を吹き込んだパイオニア的存在である。長年にわたり創造都市横浜を牽引し、多くのアーティストやクリエイターを横浜に根づかせ、豊富なネットワークの形成に貢献してきた。 そこで、横浜市とBankART1929が共に培ってきたノウハウやネットワークを活用し、創造都市施策を推進するパートナーとして連携を強化する。具体的には、4月1日施行で連携協定を締結する。連携事項は以下の5項目である： <ul style="list-style-type: none"> ・現代アートを中心とした企画の立案 ・まちづくりに関すること ・創造的人材の集積や連携 ・創造的活動へのコーディネート ・その他文化芸術創造都市横浜の推進に関すること この連携を背景に、新しい企画を市と一緒に実施していく。以上である。
岡部委員長	○ちなみに期間は。
伊藤係長	○基本1年間であるが、自動延長という形で考えている。
岡部委員長	○では、こちらは報告事項ということで、これで終了ということでのよろしいか。 【委員御挨拶】
岡部委員長	○野原委員が退任されるため、本日は欠席だが、メッセージが届いているので事務局から読み上げます。
伊藤係長	○本日は年度最後の重要な委員会に出席できず申し訳ありません。10年以上にわたり、横浜市独自の創造都市政策に関する委員会に参加できたことを誇りに思う。お世話になった皆様、ありがとうございました。創造都市施策は、市民や市関係者の指針や態度とも言えるもので、解決困難な社会課題に対してクリエイティブな知恵と工夫で乗り越えることが求められる。具体的な内容は時代ごとにも変わっても、常にポジティブでクリエイティブな態度と知恵で工夫を出し合うことが大事である。短期的な成果だけでなく、中長期的かつ総合的な成果を考えることが重要である。創造都市施策の価値と魅力を実感を持って伝え、

	<p>岡部委員長</p> <p>事務局</p> <p>事務局</p>	<p>仲間を増やし、大切にすることで、豊かな創造都市の取り組みが広がることを願っている。長い間ありがとうございました。創造界限形成推進委員会、野原卓</p> <p>○ありがとうございます。野原さんがいないことは残念であるが、引き続き助言やアドバイスをいただければと思う。ありがとうございました。では、議事は全て終了したので、進行を事務局にお戻しする。</p> <p>【事務連絡】</p> <p>○長時間にわたり、年度末のお忙しい中、ありがとうございました。本日の議事録は事務局で作成し、皆様にお送りするので、内容の確認をお願いします。また、次回の委員会は5月中旬から下旬頃に開催予定なので、改めて日程調整をお送りする。</p> <p>○これをもって、令和6年度第5回横浜市創造界限形成推進委員会を終了する。委員の皆様、長時間にわたりありがとうございました。</p>
<p>資 料</p>	<p>①次第</p> <p>② [資料1] 委員名簿</p> <p>③ [資料2] 前回議事録（令和6年11月13日開催分）</p> <p>④ [資料3] 令和7年度事業評価シート</p> <p>⑤ [資料4] 令和6年度事業評価シート</p> <p>⑥ [資料5] 創造界限形成事業の評価指標について</p> <p>⑦ [資料6] 令和7年度の委員会について</p> <p>⑧ [資料7] BankART1929との連携について</p>	
<p>特記事項</p>		

【基本情報】

拠点名称	Art Center NEW
運営期間	令和7年4月～令和13年3月
運営団体	一般社団法人Ongoing

市と運営団体が共有する中長期アウトカム

【拠点全体】

集積した創造的人材が、エリアを持つ魅力や価値を掘り起こしながら、多彩な創造的活動を展開し、エリアに新たなにぎわいを創出している。さらに、その創造的活動へ主体的に関わる市内外の人々が増えることで、1人1人の創造性やウェルビーイングが向上するとともに、新たな創造的人材が育ちその創造的活動が更に広がることで、創造都市としてのプレゼンスが向上し、市民のシビックプライドが醸成されている。

【Art Center NEW】

- ①日本を代表する先進的な現代アートの拠点としての横浜のプレゼンスの向上に寄与している
- ②創造性が刺激されるまちづくりに寄与している
- ③新たなものや価値が生まれ、発信される実験場となっている
- ④自律的な運営による持続可能な拠点となっている

【ロジックモデル】

■中長期アウトカムの達成度

<前年度までの状況>

-

<令和7年度の達成状況>

--

基本方針

- ・アートに関わる多種多様な試みにおいて、新たな価値観やこれまでになかった視点の数々を提案する
- ・国内外から多種多様な人々が集うことで、次代を担うアーティストやキュレーターといった新しい人材を育成する
- ・本施設がハブとなり周辺住民や周辺企業を巻き込んだ新たな関係性を生み出す
- ・芸術文化による新しい可能性を次々と生みだし、日本のみならず世界から注目を集めるスポットになる

<運営期間最終年度に目指す姿>

- ①日本を代表する先進的な現代アートの拠点として認知され、国内外から多くの来場者を呼ぶ（目標年間来場者数5万人）
- ②現代アートを中心に、音楽、ダンス、演劇、映像など様々なジャンルの表現者を継続的に紹介することで、横浜＝創造性を刺激する街というイメージを確立する
- ③アーティストをはじめ、キュレーターやコーディネーターなど芸術文化を支える次世代を発掘し育て、新たなものや価値を生み出す実験の場として機能する。（目標は、年間100人以上の新人発掘及び育成の達成）
- ④みなとみらい21を中心とした様々な周辺企業との協賛を行いながら、自律的な運営による持続可能なシステムを構築する。（目標とする協賛金1000万円）

■令和7年度の取組

	アクティビティ	アウトプット				初期アウトカム						該当する中長期アウトカム		
		内容	目標値	実績値	単位	内容	指標	目標値	実績値	単位	計測時期		根拠資料	
主催事業	新しいアーティストや表現を紹介する展覧会＝NEW Exhibition	オープニング記念展覧会「NEW Days」	アーティストのグループ展覧会	8	○	グループ	多くの来場者を迎え、施設の認知が進んでいる	来場者数	10000人	○	人	開催期間		①③④
		公募展	若手及び中堅を対象とした公募展	2	○	回	アーティスト等からの認知・期待が高まっている	応募数	100	○	組	募集期間		①③
	新しい知識を得ることができるレクチャーやワークショップ＝NEW Study	市民向けの文化・芸術に関するレクチャー	-	○	回	参加者が増えている	参加者	100	○	人	募集期間		①③	
	周辺地域と協働して開催する芸術の祭典＝NEW FES	イベント月間	音楽、映像、パフォーマンス等の1日から3日のイベントを開催	10	○	プロジェクト	他団体や企業等との連携が進んでいる	連携団体数	10	○	団体・社	開催期間		①②③④
	まだ知らない海外の作家たちを招聘する＝NEW Residence	Tokyo Gendai連携事業「NEW Platform -Alternative ASIA-」	アジアのオルタナティブスペース・芸術活動共有の場を創出	40	○	団体	国際的なネットワークが強化されている	交流国	12	○	国	開催期間		①③④
協力事業	YPAMや大学の卒業制作展での使用	協力事業	会場の貸し出しとコーディネート	20	○	回	自身の創作物を出展できる場であることが認知され多くの出展者が集まっている	応募数	20%	○	組	通年		①
管理運営	施設管理運営	-	通期の運営	通年	-	-	アーティスト支援の充実	満足度	80	○	%	通年	利用者アンケート	①
	エントランス運営	ライブラリー、ショップ、休憩スペース	通期の運営	通年	-	-	開かれた場になっている	利用者数	10000	○	人	通年		①②
	広報	NEW GIN	発信回数	6	○	回	Art Center NEWの活動を知ってもらおうについての認知度向上	販売数	1000	○	部	通年		①②
		公式ウェブサイト、SNSを活用した情報発信	(発信回数は目標としない)	-	-	-	Art Center NEW及び各事業の効果的な情報発信、ファンの増	エンゲージメント数 フォロワー数	30% 5000人/年	○	増	通年		①②
	施設整備（初年度のみ）	初期整備	整備実施	-	-	-	施設利用環境が整っている	満足度	80	○	%	通年	利用者アンケート	①

市の取り組む事項	
----------	--

【評価】

自己評価	
成果	課題



次年度事業への反映

総評	
----	--

これまでの総評	R5	
	R4	
	R3	
	R2	
	R1	

令和6年度 事業評価シート

【基本情報】

拠点名称	文化芸術創造発信拠点（BankART1929）	基本方針	(1) 地域及び周辺施設と連携しながら、新しい横浜文化を創造し、発信していくこと (2) 他都市及び国際的なネットワークの構築 (3) さらなるBankARTの経済的な基盤の確立 (4) 創造界隈クリエイターたちの誘致及びその経済的な構造の土俵づくり
運営期間	平成30年度～令和6年度（7年目／7年間）		
運営団体	特定非営利活動法人 BankART1929		

【事業計画及び事業評価】

I 運営／経営評価		実施結果	評価	
評価軸			自己評価	委員会評価
1 経済的な基盤の確立	1 全体事業収支	<p>全体収支は最終的に1億6300万円。自己収入は8000万程度。そのうち、助成金やトラスト、周辺企業との協働などでの収入にはとても助けられているが、それらのほとんどは館外事業に対するものである。それ以外に、3月末撤退のための費用をまかなうためのクラウドファンディングが1300万円、アーティスト有志によるチャリティー展では700万円の売り上げがあり、最終的に今年度収入額は大きな金額になった。横浜市の補助金率は最終的に39%となった。</p> <p>見た目の数字は黒字になるが、前年度、年度またぎの「BanART Life7」の展覧会準備のため赤字決算をしているため、その補填として黒字は大きく吸収される。</p>	<p>十分にできたと評価している。この間ずっと努力して、助成金やまちづくりトラスト、周辺企業との協働などでの収入を伸ばし、自己資金率を上げてきた。しかしそれらの多くは、内部スタッフの人件費や家賃、事務諸経費は計上できないため、横浜市の補助金(ベーシックインカム)があるからこそ、外部で獲得したお金を有効に活用することができていた。また企業や地域との連携も横浜市のミッションと補助金があるからこそ着手できていたのである。わたしたちがしていたことは、横浜市の補助金を元手にその価値を増幅していたのだ。その構造を現在の横浜市が理解していなかったことは非常に残念でならない。これはこの公設民営方式を、指定管理者制度よりも先に、しかもそれよりも優れたシステムとして展開した創造都市事業の最も特徴的な部分であったはずだ。にもかかわらず、横浜市の補助金が急に0になっても、我々がやってきたことが引き続き同様に展開可能であると思われていたことに、かなりのショックを受けている。</p>	<p>次年度運営事業者として不採択となった以降、資金源であるコーディネート事業を実施しつつ、退去に向けての作業を進めることは、組織運営上、非常に厳しい状況であったと思う。しかし、未経験だったクラウドファンディングに取り組み、これまでの活動の蓄積により、多くの協力者の支援により、事業継続と退去を同時に実現できる見込みを立てられたことは、BankARTが20年間で築き上げてきたネットワークがあったからこそ実現できたことである。</p> <p>公的支援や拠点がなく中での活動継続は困難を極めるが、これからの時代の要請を踏まえながら、世界唯一の活動体として更なる進化を期待したい。</p>
	2 収入のうち、横浜市の補助金が占める比率			
	3 横浜市の補助金以外の収入(助成金、協賛金、貸館収入等)の内訳と比率			
2 施設の維持管理状況	1 施設の管理状況	<p>□BankART KAIKO ・空調、消防設備は三井不動産によって管理、清掃されている。外部との隣接ドアが強風で鍵が壊れているのに対応がされていない。</p> <p>□BankART Station ・空調などは前年度と変化なし。空調は自分たちで定期的に清掃し、コスト削減をしている。新しい雨漏り箇所ができてつある。</p> <p>□安全対策、その他(両館共通) 防犯カメラの設置、施設内外での活動をカバーできる損害賠償保険への加入は継続。</p>	<p>BankART Stationでは新たな雨漏り箇所が発生。しかしアーティストがそれを作品に昇華したことは、BankARTらしい展開であった。(鳥袋道浩「音楽が聞こえてきた」) 横トリ期間、BankART KAIKO(横浜クリエイティブCOOP)とBankART Stationの隣接道路区域(無料ゾーン)で各1件、計2件の盗難があった。防犯カメラでは特定できず、その後カメラの設置台数を増設。賠償は保険適用で対応した。</p> <p>その他、大きな問題は起こっておらず、3月中に無事に引き渡しを完了させた。</p>	
	2 施設の修繕・改善状況			
	3 安全対策			
	4 その他			
3 運営体制・労務管理	・BankART Station（隣接する道路区域を含む） ・BankART KAIKO ・その他			
	1 スタッフの配置状況(役割・人数)・勤務体制・待遇	<p>代表: 細淵太麻紀 副代表: 秋元康幸 = 委託・非常勤 プロジェクトマネージャー: 津澤 峻(総務、施工、管理) 高橋紀子(管理)～9月まで 大蔭直子(外交渉サポート) = 委託・非常勤 桑原健太郎(外交渉サポート) = 委託・非常勤 キオグリフィス(英訳、作家補助) = 委託・非常勤 ～10月まで アルバイトスタッフ15名(主にアーティスト系。受付、作品制作補助、施工など) 外部スタッフ: 写真、デザイン、ウェブ、税務、労務、キュレーター</p>	<p>大きな事故等なく安定的に運営ができた。</p> <p>契約最終年であるため、限られたスタッフと非常勤スタッフでどうにか回してきたが、中盤ではそれぞれのスタッフの役割分担がうまくなされ、良いチームに育ってきた。新しく常勤スタッフ希望だった新卒予定者には、その結論を横浜市の公募結果が出るまで待ってもらっていたが、結果受け入れることができなくなり申し訳なかった。</p> <p>労務管理に関しては、今年度は横トリやTokyo Gendaiなど周辺のイベントにあわせた動きをしなくてはならないことが多く、また後半は通常事業と並行して引越作業や来年度以降の組織の組み立てをせねばならず、自分たちで全体の負荷をスケジューリングできる状態をつくることはできなかった。</p>	
4 広報・発信	1 先駆的な創造活動の国内外に向けた発信強化	<p>メールニュース配信 2万アドレス Instagram、Facebook、XなどのSNSでの発信 ウェブサイトによる情報発信(通常サイト、特設サイトなど)</p> <p>Under35のカタログ刊行、書籍刊行。過去のアナログデータのデジタル化。</p>	<p>メールニュースは、安定的に情報配信をおこなうツールとして有効に機能した。クリック測定値などからも、メールニュースからWebサイトなどを訪れる確率が高く、効果的な情報ルートであることが確認された。</p> <p>加えてInstagram、Facebook、XなどのSNSでの発信を強化することにより、こまめな情報発信を実施。Life7、鳥袋展ともに、展覧会の動画を作成し配信することも効果的であった。</p> <p>またウェブサイトを更新したり、展覧会やプロジェクトごとの特設サイトなどをつくることで、必要な情報へのアクセスのしやすさを確保できるとともに、その効果的なアーカイブ化にも努めた。</p> <p>Life7では特に、アルバイトに入っている学生や若いスタッフたちによる広報チーム「実験広報部」で、広報動画の作成やブログ執筆などをおこなってもらった。おかげで、特にツアーなどの実際に参加できる人の限られたイベントのアーカイブもきちんと残すことができた。また紙資料のみならず、過去のスクール記録などの膨大な映像資料もデジタルデータ化を進めた。</p>	
	2 各事業の効果的な広報活動・情報発信			
	3 創造都市横浜のPRにつながる広報活動・情報発信			
	4 事業のアーカイブの作成、発信(出版物、映像資料等)			

II 創造性／政策達成評価				評価	
評価軸	評価の着眼点	事業計画(要旨)	実施結果	自己評価	委員会評価
1 地域及び周辺施設と連携しながら、新しい横浜文化を創造し、発信していくこと	1	アーティスト・クリエイターの育成支援や横浜への定住・定着を促すことを主な目的とした短期滞在型アーティスト・イン・レジデンス事業	<input type="checkbox"/> スタジオ事業 通常のスタジオ事業は開催できなかった。かわりに実証実験として「ExPLOT Studio」にて8組の作家に制作場所を提供。みなとみらいの企業内の研究者や福祉などの他分野との交流を意識して展開。 <input type="checkbox"/> 横浜台北交流事業 日本からの派遣は台北THAVの都合で今年度はなしに。チェン・ウェンハオ氏がExPLOT Studioにて活動。昨年度滞在のウー・チェンイー氏がBankART Life7に参加。同じく昨年度台北THAVに滞在したナカバヤシアリス氏が帰国後、横濱ゲートタワースタートギャラリーにて成果展示、ExPLOT Studioにてトークをおこなった。	地域及び周辺施設との連携、新しい横浜文化の創造・発信にはこの間かなり意識的に取り組んだ。 まず「横浜トリエンナーレ」と連動して「BankART Life7」を開催。そのBankART Life7では周辺地域との連携をはかった街中展示を展開した。横浜ポートサイド周辺地区14箇所15作家、みなとみらい地区8箇所7作家、関内地区4箇所5作家+1プロジェクト、BankART Stationでは20作家+1プロジェクト、ツアーは上記3エリアで30本にも及んだ。特にポートサイド地区の展示は「横浜ポートサイド街づくり協議会」と共催という形で開催し、多くの店舗や企業と連携しておこなわれた。みなとみらい地区も、周辺企業とのこれまでの連携が結実し、周辺建物内外での複数の展示に展開。「横浜高速鉄道」からは新高島駅、みなとみらい駅、馬車道駅でそれぞれ展示場所の提供を受けた。また「パシフィコ横浜」と連携することで、ぶかり棧橋での展示も実現、その真逆にある関内の雑居ビルなど、横浜らしいさまざまな場所に観客を誘引することに寄与した。 BankART KAIKOは「横浜トリエンナーレ」に会場提供し、その横に、創造界限拠点である「黄金町エリアマネジメントセンター」「象の鼻テラス」と「横トリ組織委員会」と共同で「横浜クリエイターズCOOP」を運営し、横浜に所縁のあるアーティストやクリエイターを発信した。また、3つの創造界限拠点間で拠点会議を重ね、若手育成の機会創出ということで、「横浜クリエイターズCOOP」の会場で夜間におこなわれるトークイベントのシリーズ「横浜クリエイターズナイト」の企画運営を3拠点の若手スタッフが担当。さらに、横浜市役所アトリウムで創造都市20周年を記念したイベント「横浜ミーティングドーム」も同じく3拠点の若手スタッフが担当した。 トリエンナーレ開催時以外にも、横濱ゲートタワー(スタートギャラリーの展示コーディネート×3回)、工事JV企業からの委託でおこなった神奈川公園雨水幹線工事の仮囲いアートコーディネート、(株)横浜都市みらいと共同でのシェアスタジオの「ExPLOT Studio」実証実験、その他、東京建物+プリリア自治会(磯子貴賓館の活用)、大和ハウス、有隣堂、京浜急行など、企業や地域との企画連携を前提としたミーティングも数多く行われた。 定番の「BankART Artist in Studio」が開催できなかった代わりに、来年度以降長期のシェアスタジオの開設を前提に、実証実験としてシェアスタジオ「ExPLOT Studio」を開き、8組のアーティストが制作拠点として活動した。みなとみらいらしく企業内クリエイターや福祉やITなど他分野との協働の場を目指してイベントなども展開。またこの「ExPLOT Studio」には、「台北市横浜市芸術家交流事業」で横浜に滞在する台北作家チェン・ウェンハオ氏も 他のアーティストたちと共にスタジオを構えた。	ポートサイドにも活動範囲を広げることで、関内の旧都心・みなとみらい・ポートサイドという3つからなる面的なインナーハーバーという全体像が浮かび上がり、新しい地平を改めて開くことに繋がったと評価できる。 周辺企業や地域とも着実にネットワークの構築を進めることで、連携企業や団体が増えてきている。その結果、アートがまち広がり、新しい横浜文化の創造・発信されることで、にぎわいの創出にも寄与してきたといえる。
	2	横浜で活動するアーティスト・クリエイターや企業・事業者・市民等と連携した街の活性化に寄与する事業	<input type="checkbox"/> 街に広がるアート展開 BankART Life7[みなとみらい21地区、ヨコハマポートサイド地区、関内地区] ・ポートサイドは加えて秋にもワークショップ+展示を開催 <input type="checkbox"/> 周辺企業との連携 ・三井不動産(北仲歴史広場での展示×2回) ・横濱ゲートタワー(スタートギャラリーの展示コーディネート×3回) ・神奈川公園雨水幹線工事の仮囲いアートコーディネート ・(株)横浜都市みらいと共同でのシェアスタジオの実証実験 ・その他企業との企画連携を前提としたミーティング =東京建物(磯子貴賓館)、大和ハウス、有隣堂、京浜急行他 <input type="checkbox"/> スクール事業 ・3期(7-9月、11-12月、2-3月)で計7講座を開講。 <input type="checkbox"/> 他事業、イベントとの協働 ・Tokyo Gendai、横浜トリエンナーレ <input type="checkbox"/> その他 ・横浜クリエイティブCOOPの開催(周辺アーティスト、クリエイター、企業との協働)		
	3	本事業の成果発信及び最先端の文化芸術に市民が触れる機会の提供等を目的とした様々なプログラム	<input type="checkbox"/> 主催企画展 ・BankART Life7(ヨコトリと連携事業) ・島袋道浩個展の開催 ・Under35の開催 <input type="checkbox"/> コーディネート事業 ・YPAM、卒展、企業展など <input type="checkbox"/> スクール事業 ・年間12講座開催 ・オンライン、アーカイブ公開の本格的推進 <input type="checkbox"/> コンテンツ事業 ・各企画展のカタログ発行 ・オリジナルコンテンツ発行		
2 他都市及び国際的なネットワークの構築	1	<input type="checkbox"/> 主催事業 <input type="checkbox"/> 横浜台北交流事業 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 台北市との芸術家相互派遣プログラム ・台北との交換AIRの実施 <input type="checkbox"/> その他 ・越後妻有大地の芸術祭 ・続・朝鮮通信使 ・視察、講演、共同事業やコーディネート事業の受入れ	<input type="checkbox"/> 主催事業 ・BankART Life7(国際展:横浜トリエンナーレとの連携) ・島袋道浩展(国外での発表が多く国際的な知名度のある作家、Tokyo Gendaiと併せての開催) <input type="checkbox"/> 台北市横浜市芸術家交流事業 ・台北からの派遣アーティストの受け入れ <input type="checkbox"/> その他 ・越後妻有大地の芸術祭 ・視察、講演、共同事業やコーディネート事業の受入れ	国際的な芸術祭、アートフェアと連携して主催事業を展開した。 台北交流事業は、受け入れ先の都合で今年横浜からの派遣はないが、台北からの受け入れは継続。台北のアーティストには実証実験中のExPLOT Studioで活動してもらうことで、他のアーティストや市民との交流も積極的におこなった。また福祉分野へのリサーチなど滞在プランがはつきりしているため言語的にも専属のサポートスタッフをつけ、リサーチ先などについてもフォローしていることで、より深いリサーチに基づいた成果がみられた。 越後妻有での展示展開に評価を得て、次の瀬戸内国際芸術祭での高見島のコーディネートの仕事へと発展したことはとてもありがたい。
3 創造界限クリエイターたちの誘致及びその経済的な構造の土俵づくり	1	<input type="checkbox"/> 主催事業・スタジオ事業 <input type="checkbox"/> コンテンツ事業 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 主催事業・スタジオ事業 ・Under35の開催(2人×3回=6人の個展) ・ExPLOT StudioでのAIRの開催(オープンスタジオの開催) <input type="checkbox"/> コンテンツ事業 ・Under35作家のカタログ6冊制作 ・書籍「横浜パブリックアート大全」(飯島悦郎+村田真) ・書籍「星屑の子どもたち」(浅井裕介) <input type="checkbox"/> その他 ・横浜クリエイティブCOOPの開催	<input type="checkbox"/> 主催事業・スタジオ事業 ・Under35の開催(2人×3回=6人の個展) ・ExPLOT StudioでのAIRの開催(オープンスタジオの開催) <input type="checkbox"/> コンテンツ事業 ・Under35作家のカタログ6冊制作 ・書籍「横浜パブリックアート大全」(飯島悦郎+村田真) ・書籍「星屑の子どもたち」(浅井裕介) <input type="checkbox"/> その他 ・横浜クリエイティブCOOPの開催	アーティストやクリエイター誘致、その経済構造の土俵作りには特に力をいれて活動した。Under35や横濱ゲートタワーの公募では、海外を拠点に活動する横浜生まれの作家、関西や東北拠点の作家、横浜拠点の作家など幅広く選定し、紹介することができた。 みなとみらいに新しいシェアスタジオExPLOT Studioを開き、来年度以降の本格事業を視野に入れた実証実験を開始することができた。現在周辺に大型のシェアスタジオがないので、これをなんとか本格事業に移行させ、多くのアーティストを誘致したい。 Under35で作成しているカタログ冊子は、1000冊を作家に渡して名刺がわりに配ることで次の仕事をとってくるようなツールとして活かしてもらっているが、BankART自身も、特に外部展開をする場合の作家資料として重宝している。またUnder35での作品売り上げも伸びた。 トリエンナーレ客をターゲットに他の拠点と協働しておこなった「横浜クリエイティブCOOP」は、界限のクリエイターたちをフューチャーし、また販売によって経済をつくる格好の機会となった。

<p>総評</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市の文化政策の象徴的な存在であり、これまでの活動を本当に敬意を表している。 ・これまで20年間横浜市が掲げられてきた創造都市政策の中で、フロントランナーとして長年駆け抜けてきたことにより、創造都市横浜のイメージを作り上げてきたことを高く評価している。 ・組織としての関係性が変わったとしても、世界で唯一の活動体であり、これからも横浜市といろんな協力体制をもし継続できるようであれば、ぜひお願いしたい。 ・20年前の時代とは違うこれからの時代の要請に、どう応えていくか、どう進化していくかということが問われてくる。それも含めてのBankARTのこれからの活動に期待したい。 	<p>【市の取り組むべき事項】 BankART1929が創造都市横浜のフロントランナーとして築き上げた実績は非常に高く評価でき、活動が流出してしまうことは市としても大きな損失であるため、今後も継続的な協力体制の構築に取り組むこと</p>
-----------	---	--

<p>これまでの総評</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="329 567 379 646">R5</td> <td data-bbox="379 567 2902 646"> <ul style="list-style-type: none"> ・事業環境の様々な変化に負けず、うまくリカバリーをして乗り切っていると感じる。 ・参加者やアーティスト等がどのように自分たちの活動を見て、どのように評価しているのか、第三者の客観的意見・データが重要 ・まちに広がるという要素は全市的に求められているので、効果的にやっていくことが大切 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="329 646 379 701">R4</td> <td data-bbox="379 646 2902 701"> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい体制の中で、元に戻る発想ではなく、次の時代を見据えた発想で事業を検討し取り組んでいることは評価できる。この2年間でBankARTのポジションとキーコンセプトを見極め、BankARTらしい創造活動をもう一回作り上げてほしい。 ・これからの時代にあわせてどのような視点で活動していくのか。取捨選択をしっかりと柱を立てた上でさらに横の連携も図って行って、どのようにポジショニングを再構築していくか。未来志向で新機軸を打ち出してほしい。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="329 701 379 785">R3</td> <td data-bbox="379 701 2902 785"> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続きコロナの影響を受ける中、事業が実施できなくても継続性を保つような「耐える力」を発揮することで、集積したアーティストを引き続き支えることができている。 ・道路の使い方や企業とのつながりなど、まちを開いていくためのチャレンジをプロセスを踏んで行ってきたことも評価できる。 ・BankART全体の運営を体制変更に伴い再構築していく中で、基本方針とのすり合わせが必要。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="329 785 379 869">R2</td> <td data-bbox="379 785 2902 869"> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍や施設再編など大きな変化があった中、一部実施できなかった事業もあるが、助成金の積極的な獲得や鉄道事業者との連携による駅舎の活用、海外からのリモートによる作品制作など、多様な取組やチャレンジにより多くの事業を実現できたことは評価できる。 ・みなとみらいの企業等との交流の足掛かりはできているので、キング軸形成のサポートや増加するアミューズメント・ミュージアム機能のつなぎ役を担うことも期待したい。 ・コロナ禍でデジタルシフトが促進されたことに鑑み、オンラインの活用にも力を入れ、リアルとオンラインの併用により、市民への情報発信や新たなファン層の獲得につなげていくことを期待する。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="329 869 379 974">R1</td> <td data-bbox="379 869 2902 974"> <ul style="list-style-type: none"> ・分散型施設の本格的な運営初年度かつ、コロナも重なり非常に厳しい条件の中、施設の再編成に着手するなど、今後の安定した運営に向けた取組に尽力されている点が評価できる。 ・stationにおいて、鉄道会社、駅舎との協調や道路使用上での工夫がみられるほか、みなとみらいに立地する企業や学校との連携が着実にできており、様々な可能性を広げている点が高く評価できる。 ・客観的に推移・経年変化を把握できるよう、事業の内容や経費などをデータで蓄積し、今後の運営に生かすことを期待する。 ・リスクマネジメントの観点から、不慮の事態に備えた体制づくり、人材育成を進めていくことを期待する。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="329 974 379 1064">H30</td> <td data-bbox="379 974 2902 1064"> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい拠点となって1年目であったが、移行期をうまく乗り越えた。新旧の街に分散して拠点を持つことになったことに対し、ソフト的な意味でのネットワークから各施設をどのように活用していくかまで、新しい可能性を含めて見えてきたことは評価できる。 ・Stationは横浜高速鉄道や道路局との調整の結果、よいスペースを作り上げることができた。事業についても、集客数が大きく落ちることはなかった。各拠点の特徴を生かした今後の展開に期待が持てる。 ・工事費・整備費等で予想外の支出があったものの、収支を合わせられたことは評価できる。 </td> </tr> </table>	R5	<ul style="list-style-type: none"> ・事業環境の様々な変化に負けず、うまくリカバリーをして乗り切っていると感じる。 ・参加者やアーティスト等がどのように自分たちの活動を見て、どのように評価しているのか、第三者の客観的意見・データが重要 ・まちに広がるという要素は全市的に求められているので、効果的にやっていくことが大切 	R4	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい体制の中で、元に戻る発想ではなく、次の時代を見据えた発想で事業を検討し取り組んでいることは評価できる。この2年間でBankARTのポジションとキーコンセプトを見極め、BankARTらしい創造活動をもう一回作り上げてほしい。 ・これからの時代にあわせてどのような視点で活動していくのか。取捨選択をしっかりと柱を立てた上でさらに横の連携も図って行って、どのようにポジショニングを再構築していくか。未来志向で新機軸を打ち出してほしい。 	R3	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続きコロナの影響を受ける中、事業が実施できなくても継続性を保つような「耐える力」を発揮することで、集積したアーティストを引き続き支えることができている。 ・道路の使い方や企業とのつながりなど、まちを開いていくためのチャレンジをプロセスを踏んで行ってきたことも評価できる。 ・BankART全体の運営を体制変更に伴い再構築していく中で、基本方針とのすり合わせが必要。 	R2	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍や施設再編など大きな変化があった中、一部実施できなかった事業もあるが、助成金の積極的な獲得や鉄道事業者との連携による駅舎の活用、海外からのリモートによる作品制作など、多様な取組やチャレンジにより多くの事業を実現できたことは評価できる。 ・みなとみらいの企業等との交流の足掛かりはできているので、キング軸形成のサポートや増加するアミューズメント・ミュージアム機能のつなぎ役を担うことも期待したい。 ・コロナ禍でデジタルシフトが促進されたことに鑑み、オンラインの活用にも力を入れ、リアルとオンラインの併用により、市民への情報発信や新たなファン層の獲得につなげていくことを期待する。 	R1	<ul style="list-style-type: none"> ・分散型施設の本格的な運営初年度かつ、コロナも重なり非常に厳しい条件の中、施設の再編成に着手するなど、今後の安定した運営に向けた取組に尽力されている点が評価できる。 ・stationにおいて、鉄道会社、駅舎との協調や道路使用上での工夫がみられるほか、みなとみらいに立地する企業や学校との連携が着実にできており、様々な可能性を広げている点が高く評価できる。 ・客観的に推移・経年変化を把握できるよう、事業の内容や経費などをデータで蓄積し、今後の運営に生かすことを期待する。 ・リスクマネジメントの観点から、不慮の事態に備えた体制づくり、人材育成を進めていくことを期待する。 	H30	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい拠点となって1年目であったが、移行期をうまく乗り越えた。新旧の街に分散して拠点を持つことになったことに対し、ソフト的な意味でのネットワークから各施設をどのように活用していくかまで、新しい可能性を含めて見えてきたことは評価できる。 ・Stationは横浜高速鉄道や道路局との調整の結果、よいスペースを作り上げることができた。事業についても、集客数が大きく落ちることはなかった。各拠点の特徴を生かした今後の展開に期待が持てる。 ・工事費・整備費等で予想外の支出があったものの、収支を合わせられたことは評価できる。
R5	<ul style="list-style-type: none"> ・事業環境の様々な変化に負けず、うまくリカバリーをして乗り切っていると感じる。 ・参加者やアーティスト等がどのように自分たちの活動を見て、どのように評価しているのか、第三者の客観的意見・データが重要 ・まちに広がるという要素は全市的に求められているので、効果的にやっていくことが大切 												
R4	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい体制の中で、元に戻る発想ではなく、次の時代を見据えた発想で事業を検討し取り組んでいることは評価できる。この2年間でBankARTのポジションとキーコンセプトを見極め、BankARTらしい創造活動をもう一回作り上げてほしい。 ・これからの時代にあわせてどのような視点で活動していくのか。取捨選択をしっかりと柱を立てた上でさらに横の連携も図って行って、どのようにポジショニングを再構築していくか。未来志向で新機軸を打ち出してほしい。 												
R3	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続きコロナの影響を受ける中、事業が実施できなくても継続性を保つような「耐える力」を発揮することで、集積したアーティストを引き続き支えることができている。 ・道路の使い方や企業とのつながりなど、まちを開いていくためのチャレンジをプロセスを踏んで行ってきたことも評価できる。 ・BankART全体の運営を体制変更に伴い再構築していく中で、基本方針とのすり合わせが必要。 												
R2	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍や施設再編など大きな変化があった中、一部実施できなかった事業もあるが、助成金の積極的な獲得や鉄道事業者との連携による駅舎の活用、海外からのリモートによる作品制作など、多様な取組やチャレンジにより多くの事業を実現できたことは評価できる。 ・みなとみらいの企業等との交流の足掛かりはできているので、キング軸形成のサポートや増加するアミューズメント・ミュージアム機能のつなぎ役を担うことも期待したい。 ・コロナ禍でデジタルシフトが促進されたことに鑑み、オンラインの活用にも力を入れ、リアルとオンラインの併用により、市民への情報発信や新たなファン層の獲得につなげていくことを期待する。 												
R1	<ul style="list-style-type: none"> ・分散型施設の本格的な運営初年度かつ、コロナも重なり非常に厳しい条件の中、施設の再編成に着手するなど、今後の安定した運営に向けた取組に尽力されている点が評価できる。 ・stationにおいて、鉄道会社、駅舎との協調や道路使用上での工夫がみられるほか、みなとみらいに立地する企業や学校との連携が着実にできており、様々な可能性を広げている点が高く評価できる。 ・客観的に推移・経年変化を把握できるよう、事業の内容や経費などをデータで蓄積し、今後の運営に生かすことを期待する。 ・リスクマネジメントの観点から、不慮の事態に備えた体制づくり、人材育成を進めていくことを期待する。 												
H30	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい拠点となって1年目であったが、移行期をうまく乗り越えた。新旧の街に分散して拠点を持つことになったことに対し、ソフト的な意味でのネットワークから各施設をどのように活用していくかまで、新しい可能性を含めて見えてきたことは評価できる。 ・Stationは横浜高速鉄道や道路局との調整の結果、よいスペースを作り上げることができた。事業についても、集客数が大きく落ちることはなかった。各拠点の特徴を生かした今後の展開に期待が持てる。 ・工事費・整備費等で予想外の支出があったものの、収支を合わせられたことは評価できる。 												

令和6年度 事業評価シート

【基本情報】

拠点名称	初黄・日ノ出町文化芸術拠点	基本方針	◆安心・安全のまちづくりを最優先に位置づけ、以下の理念を基に文化芸術によるまちづくりを行う ①文化芸術の力で新しい価値観を産み出し、地区の活性化 ②NPO法人を中心に、地域、企業、行政、警察、ボランティア等を巻き込んだ新しいスタイルの事業運営 ③産業の振興や暮らしやすいまちづくりへの持続的な展開 ④大学、研究機関等との連携により、まちの活性化、地域再生のモデル地区として全国に発信する
運営期間	令和6年度		
運営団体	黄金町エリアマネジメントセンター		

【事業計画及び事業評価】

I 運営／経営評価		実施結果	評価	
評価軸			自己評価	委員会評価
全体事業収支	1 全体事業収支	[経常収益計]124,649,654円 [経常費用計]123,269,732円 [収支差額]1,379,922円 [横浜市補助金比率]41.3%	前年度と比較すると経常収益が21,041,978円増、経常費用は2,969,971円増となった。どちらも黄金町バザールが横浜トリエンナーレと連携したことで事業規模が大きくなったことが関連している。収益はチケット等の販売収益が増加したことのほか、施設貸出やAIRの家賃収益、委託事業収益の増加が増収に繋がったと見られる。なお、令和7年度は黄金町バザールが通常の規模に戻るため、販売収益は下がる見込みである。	・運営体制について、外国人スタッフの採用や専門業種の人材の多様性など日本のモデルとなっていることは評価できる。 ・世代交代に向けた調整を進め、国際性などを鑑みた新体制を構築しつつあり、よい方向性に進んでいる。
	2 収入のうち、横浜市の補助金が占める比率			
事業収入	1 黄金町バザール・企画展・イベント等収入(チケット収入等)		横浜トリエンナーレとの連携チケット、単体チケットの収入および特設ショップ、安部泰輔作品売上による収入が大きかった。夏休み子どもバザールは昨年度より参加費を値上げしたが、参加者数は昨年より減少したこともあり、大きくは伸びなかった。のきさきアートフェアの出店料、黄金町芸術学校の講座料についても一部値上げを実施したが、こちらは参加者数に大きな影響はなく、多少ではあるが増収につながった。 本年度は貸ギャラリーの利用料金を下げ利用数の増加を狙った。結果、貸出利用が増えたこと、企業の大口利用があったため、短期利用収入が増加した。また、AIRのアーティスト数増加に伴い、家賃収益が安定的な収入源となっている。 一方で文化庁の助成金、京浜急行電鉄からの企業協賛金は縮小傾向にある。クラウドファンディングは京浜急行電鉄から沿線応援企画として誘われたもので、初黄・日ノ出町地区のパブリックアートの設置費用を募集し、短期間で目標を達成できた。	
	2 黄金町芸術学校(受講料)	[黄金町バザール]7,075,694円(R6.3月～6月) [夏休み子どもバザール収益]258,500円 [のきさきアートフェア出店料]58,500円 [黄金町芸術学校受講料収益]136,540円		
	3 高架下スタジオ利用料	[高架下スタジオ利用料(短期利用)]1,906,065円 [その他物件家賃収益]35,210,884円		
	4 その他物件家賃収入	[ギャラリー等作品・グッズ販売収益]16,971,317円 [視察料金]345,275円 [受託業務収益]12,580,599円 [企業協賛金]1,000,000円 [文化庁]3,800,000円 [クラウドファンディング]299,645円		
	5 ギャラリー等販売手数料			
	6 その他(助成金、協賛金等)			
施設の維持管理状況	1 施設の利用状況(管理施設数、稼働状況)	[管理施設数]119室(区画) [施設の利用状況(年間)] 自社利用(事務所、工房、倉庫等)22室 一般貸出施設 5室 入居施設 79室 空室 13室	令和5年度より当団体が独自で借りている企業ビルの2フロアを、黄金町バザールで展示利用した後、区分けを行い令和6年度7月以降はシェアスタジオとして貸出を開始した。このシェアスタジオは5年が経過したAIRアーティストや海外アーティストのワークスペース、YPAMのセカンドオフィスとして少しずつ利用者が増えている。 また、海外アーティストの短期レジデンスや国際交流団体、派遣されたアーティストの受け入れにより、稼働率は年間を通じて70～80%を保っている。その反面、スタジオの不足が見込まれることから、これまでウィンドウ・ギャラリーとして活用していたスタジオの改修を行い、制作スタジオとしてアーティストが入居できるように整備した。一方で、AIR開始初期に導入したエアコンや給湯器等設備の使用年数経過に伴う故障・交換が相次いでおり、設備交換の件数が増えている。	
	2 施設の管理状況	[施設の利用用途] スタジオ/レジデンス/展示施設/集会施設/自営店舗/シェアキッチン/入居者共用施設(工房・キッチン)/倉庫/未整備/利用不可		
	3 施設の修繕・改善状況	[施設の改修状況] 施設改修3件 (エアコン、給湯器等の交換、壁紙の張り替え等)		
	4 安全対策・危機管理体制			
運営体制・労務管理	1 スタッフの配置状況(役割・人数)・勤務体制・待遇	[事務局スタッフの配置状況] 事務局長1名 事務局次長 1名(10月まで2名体制) 総務経理 常勤1名 非常勤2名 マネージャー 常勤1名 アートプロジェクト 常勤3名、非常勤1名 エリアマネジメント 常勤1名、委託1名 工房管理 委託1名 店舗等運営 非常勤5名 ※R7.3月末現在	前年度から継続して、中国、韓国、フィリピン出身のフタッフを常勤職員として雇用し、事務局職員の多国籍化を進め、海外アーティストの対応や海外協力団体との交渉をスムーズに行えるようになった。新たに、中国人留学生がアルバイトとして勤務し、海外アーティストの対応や地域交流などで活躍している。年度の途中から、地域交流拠点の運営を委託しているアーティストに協議会運営にも協力してもらい、地域とのコミュニケーションをより密にとれる体制づくりを進めている。 総務・経理を担当する職員が8月で入れ替わりとなった。	
	2 スタッフのスキルアップ、モチベーションアップ、ワークライフバランスのための取組			

II 創造性／政策達成評価				評価		
評価軸	評価の着眼点	事業計画(要旨)	実施結果	自己評価	委員会評価	
広報・発信	1	地域再生のモデル地区としての発信	黄金町まちづくりニュースの発行 6,10,12月各3,000部、3月 3,500部 事業ごとのポスター、チラシの作成、SNSでの発信強化 TV番組やラジオ、新聞等の取材対応 30件 視察対応 23件(内、海外16件) 外部後援 6件(内、海外3件)	協議会の広報イベント部会と協力して、地域の広報物としてまちづくりニュースを制作している。協議会からのお知らせやイベント情報、店舗紹介のほか、AIRアーティストのインタビュー記事を掲載し、地域住民へアートとまちづくりの情報発信を行っている。 テレビや新聞等の取材が数件あり、その多くがアートによるまちづくりに着目した構成であった。また韓国メディアのテレビ取材を受けた。また、高架下の活用事例として、韓国メディアのテレビ取材を受けた。視察では台湾、韓国の地方都市の議員・職員による視察が複数件あり、アートによる都市再生のモデル地区として関心を得ているらしい。 過去に滞在したアーティストのその後の活動リサーチと滞在中のアーティストへのインタビューを進めている。インタビューについては令和7年度に公開予定である。 また、台湾の団体から当団体の事業アーカイブ制作とそのリサーチの提案を受けており、調整を進めている。		
	2	各事業の効果的な広報活動・情報発信	シンポジウムやアーティストインタビュー、トークイベント等のアーカイブ映像のYouTube配信やInstagramライブ配信 過去滞在したアーティストのその後の活動歴のリサーチ			
	3	創造都市横浜のPRにつながる広報活動・情報発信				
	4	事業のアーカイブの作成、発信(AIRアーティストのその後の活動状況の見える化を含む)				
文化芸術の力で新しい価値観を生み出す	1	アーティストへの滞在・制作・発表の場の提供 アーティスト支援の充実が図れているか 他のAIR事業との差別化が図れているか	AIR事業 長期・短期レジデンス/共用施設の運用/中間面談/アーティストミーティング/作品展示・販売協力/勉強会実施/広報協力 <目標>入居者数(長期)50組(短期)20組、施設整備数6件	[長期レジデンスアーティスト数]延べ48組49名(内、海外14名) [短期レジデンスアーティスト数]延べ29組30名(内、海外25名) [アーティスト支援] アーティスト連絡会議(月1回)/個展の企画運営/ギャラリィでの作品やグッズの販売協力/アーティスト同士のプレゼンテーションや交流の場として「ON AIR」の実施(月1回) アーティストの自主企画支援40件 [施設整備] 共有工房の整備・運営 スタジオ整備3件+シェアスタジオ1件	長期レジデンスアーティストは前年度より2組増加、短期レジデンスアーティストは16組増加となっており、特に海外アーティストの割合が増加している。海外アーティストに応募動機を聞くと、滞在中または過去に滞在したアーティストからの紹介ということが増えている。また、過去に短期滞在アーティストやコロナ禍でオンライン交流のみであったアーティストらがビザを取得して長期レジデンスを希望する件数も増えている。彼らの滞在は日本人アーティストへのよい刺激となっている。こうした黄金町AIRのアーティスト・コミュニティについて、アーティスト同士のネットワークで情報が共有され、新規参加者の増加につながっていることが見受けられる。 一方で、地域住民とアーティストとの関わりが、コロナ禍以降で薄れてしまっている点は否めない。その危機感を双方が持ち合わせているようで、昨年度はアーティスト側からも地域側からも交流の機会を望んでいる意見をよく耳にするようになった。この課題に対して、スタッフが地域の店舗を訪問してアーティストと地域住民の小規模な交流会を開くなど、小さな関係づくりをスタートさせた。このような地道な取り組みを積み重ねながら、地域住民、アーティスト、スタッフ同士の関係性を強めていきたい。	海外で評価された若手アーティストを、海外の大使館や自治体などから推薦され、AIRを受け入れるなどの成果があり、交流国も広がりを見せている。 ・海外で黄金町という言葉聞く機会も増え、AIR施設としての信頼を得ている。 ・首都圏で自由な活動ができるAIRを展開している例は少なく、海外でも期待されている。
	2	国際的なネットワークの強化	国際交流事業 レジデンス交換プログラム/海外展示/海外アートシーン紹介/海外向け情報発信 <目標>交流団体9団体	[交流団体]15団体 [レジデンス交換プログラム] 中国・成都、台湾・新竹、韓国・光州、インドネシア・バンドンの4都市と互いにアーティストを派遣し合い、現地で滞在制作や成果展示を行なった。また、韓国・清州のタイ、韓国、日本の3カ国のアーティストが互いの国を訪問し、現地のアーティストや住民と交流するプログラムに参加した。 [アーティスト受け入れ] ベトナム、スペイン・バスク地方が推薦するアーティストを受け入れた。また、駐日ブラジル大使館からの依頼により推薦アーティストの受け入れを行った。 [その他交流団体] ・釜山文化財団(韓国)、泉州市、廈門大学、大邱文化芸術財団(韓国、大邱)	また、国際交流事業においても、交換プログラムや自国のアーティストの滞在受け入れ、交流を希望する団体や施設が増えている。その他、台湾や韓国でAIRをテーマとしたフォーラムに招聘され、黄金町AIRが日本有数のAIRの一つと見做されている事を感じる機会があった。一方で、交換プログラムや派遣数が増えることで、必然的に予算の確保が課題となる。また、現地リサーチや交流のために若手スタッフが渡航し経験を積む機会も今後設けたい。 黄金町バザールは初の年度を跨いでの開催となった。年度替わりの業務とイベント運営業務を並行しなければならず、スタッフの負担が例年より多くなり、その荷重による余波が秋頃まで続いた印象である。展覧会自体は大岡川沿いの桜のシーズンと重なった事もあり、例年の黄金町バザールと比べると地域のにぎわいと結びついていいたように思う。 夏休み子どもバザールは夏のイベントの一つとして地域とアーティストに定着しつつあるように思える。しかし準備期間が黄金町バザールの会期と重なったことや、プログラム数の多さもあり、スタッフ、アーティスト、地域との連携が薄まってしまった面もある。次年度は企画内容や広報、地域連携の充実を図っていけるよう、プログラムの種類や実施回数、運営体制を見直したい。	
	3	年間を通した賑わいづくり 日常的にアートに触れる機会の創出	展覧会・イベント 黄金町バザール/夏休み子どもバザール(ワークショップ、発表展示)/秋・冬の展示(自主企画、貸出)、イベント等 <目標>来場者数延べ3万人以上 <企画数>3企画以上(黄金町バザールと夏休み子どもバザールを除く)	[来場者数]延べ34,549名 黄金町バザール(KB) 延べ31,187名 KB関連イベント 16企画、延べ1,369名 夏休み子どもバザール 全38回、延べ230名 上大岡で黄金町バザール 延べ512名(黄金町会場のみ集計) 上大岡関連イベント 3企画、147名 その他展示・イベント 10企画、1,104名	「上大岡で黄金町バザール」は、初黄・日ノ出町地区から離れたエリアでの展示となった。百貨店側の要望で当初の予定よりも展示場所が増えるなど積極的な協体制が合ったことは大変ありがたい。次年度も年間を通じた連携プランの提案が上がっている。ただ、百貨店会場と黄金町会場のそれぞれで景品がもらえるスタンプラリーは好評であったが、百貨店側の盛り上がりに対して、黄金町会場まで足を伸ばす動機には至らなかったようである。次年度は双方の賑わいに寄与できる取り組みを模索する必要があるだろう。 黄金町芸術学校は、少しずつではあるが講座の開設を検討するアーティストが増え始めている。レギュラー講座はそれぞれリピーターがついており安定的な開催ができてはいるが、近隣住民の参加は意外と少ない。 ギャラリィやショップでの作品、グッズの販売は順調である。ショップのスタッフが総入れ替えとなったが、美術書の知識やネット販売の経験を持つスタッフがに入った。オンラインショップの再開準備を意欲的に進めている。	
		黄金町芸術学校 <目標>講座数10講座、受講者数 延べ300人	[講座開催回数] 通常講座:6講座(計126回) 特別プログラム2回 [延べ参加人数] 通常講座:342名 特別プログラム19名 [講座例] 陶芸/編み物/美術講義/ビデオアート史、デッサン			

II 創造性／政策達成評価						評価	
評価軸		評価の着眼点		事業計画(要旨)		実施結果	
						自己評価	
						委員会評価	
文化芸術の力で新しい価値観を生み出す	4	販路拡大	made in Koganecho 商店での作品展示/コミッションワーク/パブリックアート企画制作/ウインドウギャラリー整備/オンラインショップ運営	[実施内容] ・黄金町アートブックバザール、gallery made in Koganechoでのグッズ、作品販売 ・ネット販売準備 ・ウインドウギャラリープロジェクト ・パブリックアート設置のためのクラウドファンディング			
地域、企業、大学、警察、行政、ボランティア等と連携した事業運営	1	地域団体、周辺施設等と連携した事業を実施できているか	のきさきアートフェア <目標>開催回数4回	[開催回数]4回(5日間、2024年7月14日(日)、11月9日(土)、10日(日)、12月5日(日)、 3月29日(土)、3月30日(日) [来場者数] 延べ5,635名	初黄日商店会主催の「はつこひ市場」と同時開催で「のきさきアートフェア」を年4回開催した。黄金町AIRアーティストに限らず、出店者を一般からも募っており、アクセサリーや雑貨のハンドメイド作家など毎度10数組からの応募がある。出店者、来場者ともに地域の定期イベントとして定着し始めているように思える。	<p>・ロックカクでのイベント開催や市民向けのワークショップを多数展開することで、子供を含め、地域にアーティスト市民が生まれてきていると感じる。</p>	
			黄金キッチン、日ノ出スタジオ運用	[日ノ出スタジオ] ・黄金町アートブックバザール、gallery made in Koganechoの運営 ・カフェの営業(貸出、8月まで) ・カフェ新規事業者の公募と審査 [黄金スタジオ] ・シェアキッチンの運営(年間事業者数4者)	<p>日ノ出スタジオの古本屋とギャラリーを週6日で営業し、来街者が気軽に立ち寄れるスペースとして運営している。その中間に位置する貸出営業のカフェは新オーナーが交替した数ヶ月後に急病で入院し、営業が見込めなくなった。そのため新たな事業者を公募し、審査の上で、すでに初黄・日ノ出町地区に店舗を構える飲食店オーナーが選ばれた。積極的に商店会や地元の青年会に参加し地域住民とも交流がある人物であるため、今後のカフェ営業も地域に開かれた場所としての展開が期待できる。</p> <p>黄金スタジオのシェアキッチンは、3月現在で土日水曜の営業となっている。特に、水日のマルシェは一定のファンがあり、営業が安定している。土曜の事業者は5月末までで終了予定だが、入れ違いで利用希望者がおり、令和7年度は週末の営業が継続できる見通しである。ただし、シェアキッチンでの営業が順調な事業者は独立して店舗を構える傾向があり、定着が課題とも言える。</p>		
			企業連携の取組、企業協賛の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・京急高架下ロックカクでのイベント開催 ・京浜急行電鉄からの黄金町バザールに対する協賛獲得 ・上大岡京急百貨店の全面協力による展覧会やワークショップ開催 ・お台場の海の灯まつり ・市内大学や高校の学生・生徒との連携による企画実施 ・初音ミクのライセンス会社の企画運営、物件探しの協力 	<p>企業との関わりとして、前述の京急百貨店との連携強化に次年度も期待している。また、新しい動きとして、初音ミクの権利元から初音町での事業展開を見据えた相談を受け、手始めに高架下のギャラリーで初音ミクの現代アート作品展を開催した。昨年度から再開したお台場海浜公園での海の日の灯明(ペーパーランプによる地上絵制作)は、本年度から10月の開催となった。時期の変更にも関わらず、観光客と地元住民が多く来場した。本年度は横浜トリエンナーレ連携企画として、5月にアメリカ山公園でも灯明を行っている。</p>		
			ステップ・スリーの運営	旧事務所スペースを地域との交流拠点として運営 ・横浜市立大学学生による活動 ・地域の方々とアーティストの交流拠点 ・アーティストによる子供向けWSの会場 ・協議会部会の打合せ会場 ・自主企画による地域住民主宰のトークイベント開催	<p>ステップ・スリーは地域住民との交流の場として引き続き運営を行なっている。年度当初は黄金町バザールの会場の1つとして、当地区のまちづくりに関する資料やインタビュー映像の上映なども行なった。また、3名の近隣住民主宰のトークイベントも毎月継続して行なっている。</p>		
			黄金町バザールサポーターの活動の充実	[活動人数]延べ85名 [活動内容] ・黄金町バザールでの安部泰輔制作サポート ・黄金町バザールでのサポーター企画イベント実施(クイズツアー、料理企画等) ・海外アーティストへの茶道体験会開催 ・イベント等レポート記事作成(Facebook、Instagram)	<p>黄金町バザールサポーターは、前年度から引き続き、黄金町バザール2024参加アーティスト安部泰輔の制作サポートで活躍した。また、会期中にクイズツアーやアーティストとの交流イベント等も企画運営した。令和7年度の黄金町バザールに向けては、来場者向けに街の魅力やアート作品について案内するツアーガイドの勉強会を企画している。</p>		
クリエイティブネットワークによる「横浜クリエイティブCOOP」と関連イベントの開催	<ul style="list-style-type: none"> ・第8回横浜トリエンナーレの会期中に公式グッズや、横浜ゆかりのアーティスト・クリエイターが制作したグッズを販売するショップ「横浜クリエイティブCOOP」の運営協力 ・「クリエイティブネットワーク」によるトークやイベントを行う「横浜クリエイターズ・ナイト」を実施(8企画) ・創造都市横浜20周年記念イベント(5月25日(金)、参加者504名) 	<p>本年度は、横浜トリエンナーレ組織委員会、BankART 1929、象の鼻テラスとの協働事業にも取り組んでいる。横浜ゆかりのアーティスト・クリエイターが制作したグッズを販売するショップ「横浜クリエイティブCOOP」の運営協力、アーティストらが集いトークやイベントを行う「横浜クリエイターズ・ナイト」の企画運営を行なった。また、創造都市横浜20周年記念イベントとして、磯崎道佳を招聘し市民参加型のイベントを実施した。これらの機会は、普段は離れた場所にある象の鼻テラス、BankART1929の若手スタッフやアーティストとのよき交流の機会となった。</p>					

II 創造性／政策達成評価				評価	
評価軸	評価の着眼点	事業計画(要旨)	実施結果	自己評価	委員会評価
産業の振興や暮らしやすいまちづくりへの持続的な展開	1 地域を活性化させるエリアマネジメントが行えているか	<p>エリアマネジメント検討 関係者との継続的な協議のための枠組みづくり 地域住民の主体的な参加</p>	<p>・「はつこひトーク」にて子育て世帯の親同士、当エリアのまちづくりに初期から参加するレジェンドによるトークイベントを開催 ・高架下の新しい広場(通称:ロックカク)の利用検討会参加</p>	<p>「はつこひトーク」を年に2回開催し、子育て世帯が登場し「この町をふるさとにしたい」をテーマにしたトークイベントと、「レジェンドが吠える」と題して、まちづくりに初期から関わっている方々に、当時のエピソードや街の様子の移り変わりを聞く会を開催した。また、通称「ロックカク」と呼ばれる高架下の広場をリニューアルする計画がある。この新しい広場をどのように利用していくかを検討する会議に、京浜急行電鉄、横浜市、地域住民、大学、アーティストらが合同で参加し闊達な議論がなされている。定例の会議とは異なる催しや集会により、住民同士またNPOとの新たな出会いの機会が増えつつある。</p> <p>初黄日商店会による「はつこひ市場」が季節に合わせて開催された。地元の人気店舗のほか、神奈川県内の有名なパン屋も出店していることもあり、行列ができることもある人気イベントとして認知され始めている。</p> <p>運河パレード関連イベントとして、「こどもはつこひ市場&のきさきワークショップ」の企画運営に協力し、屋外で工作やシルクスクリーン、占いを体験できるワークショップをコーディネートした。運河パレード主催者からの依頼であったが、のきさきアートフェアや夏休み子どもバザール等の取り組みから、ワークショップを展開できるアーティストがこの地域に集積していることが浸透してきたように思える。</p> <p>最寄りの東小学校の5年生の総合授業として、2クラスから黄金町の活動に関心が寄せられた。1クラスは、毎月、協議会が実施している防犯パトロールでのゴミ拾いに参加した。もう1クラスは、「展示会の作り方」の授業の依頼があり、出張授業やアーティストの協力で展示会を実現させた。最後に、かつて東小学校に通っていたという方が新たにサポーターとして登録した。小学生の頃に黄金町のアーティストのワークショップに参加したり、アーティストと交流をしたことをきっかけに、この春から美術系の大学に進学し、お世話になった黄金町への「恩返し」でサポーターに登録したと伺った。この方以外にも、当地区のまちづくりを見てきた子どもたちが、大学生となり論文のためのリサーチやインターン等の問い合わせを受けたりする機会がこの数年で増えてきた。</p>	<p>・まちや企業との関係性が構築されてきており、安心・安全のまちづくりが持続的に展開されている。 ・NPOの取組により地域で活動する人が自立してきていることで、地域の担い手が育っている。</p>
		はつこひ市場開催支援	<p>はつこひ市場の開催支援 【開催回数】4回(4日間、2024年7月14日(日)、11月9日(土)・10日(日)、12月15日(日)、3月29日(土)、3月30日(日))</p>		
		<p>地域活動支援 大岡川水上劇場、運河パレード等の地域イベント支援/黄金町BASE支援/東小放課後キッズとの連携</p>	<p>・防災炊き出し訓練 ・「こどもはつこひ市場&のきさきワークショップ」協力 ・黄金町BASE支援(かいだん広場活用) ・大岡川右岸歩道拡幅に向けた実証実験の受託とVRワークショップの開催 ・東小学校5年2組の総合授業として、展示会づくりの指導と企画運営支援</p>		
		<p>初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会事務局運営 定例会運営/まちのルールづくり/防犯パトロール/</p>	<p>・協議会役員会、定例会を隔月で開催 ・広報イベント部会 まちづくりニュースの発行 ・浄化推進部会 防犯パトロール、炊き出し訓練 ・地域商業推進部会 はつこひ市場開催、PR誌「はつこひさんぽ」発行 ・東小学校5年1組が総合授業として防犯パトロールに参加</p>		

総評	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流を盛んに行うことで、AIRの拠点として海外から高く評価・期待されている。 課題であった世代交代に向けた調整がなされており、世代交代後も事業が途切れずに発展していけるよう、しっかり取り組んでほしい。 今後はNPOが担ってきた役割を地域の担い手に繋いでいくことによって、持続的な暮らしやすいまちづくりを展開してほしい。 	<p>【市の取り組むべき事項】 今後も地域や他の企業との関係づくりをサポートしつつ、新たな評価シートの活用にあたっては、数値化することだけでなく、プロセスの見える化ができるよう、拠点と対話を重ねる必要がある。</p>
----	---	--

これまでの総評	R5	<ul style="list-style-type: none"> アウトプットの数値だけでなく、定性的な成果を示してほしい。 これまで総評で指摘されていた課題があまり反映されていない印象がある。 NPOが組織として今後の方向性の議論・整理を行い、スタッフ間で共有する必要がある。
	R4	<ul style="list-style-type: none"> 各々の事業の充実が評価されるものだが、各事業の実施がそれぞれ独立した事象に映り、相互の結びつきが見えない。 従前からの指摘である、事業の幅広い整理が必要である。 ディレクターの世代交代は大変なことだと思うが、持続可能な体制のために重要な視点であり、実現に向けしっかり取り組んでほしい。
	R3	<ul style="list-style-type: none"> 体制に見合った事業の選択と集中が必要。初黄・日ノ出町エリアで行う必然性や差別化等の視点で精査すべき。 アーティストの受賞歴など、後年の活躍について可視化し、黄金町のAIRにおいてアーティストを育成してきた実績をよりアピールすべきである。AIRアーティストが黄金町を経験したから成長できたことをデータ化してほしい。
	R2	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症による社会情勢の変化により、様々な影響を受ける中で、リモートでの実施やオンライン販売など、様々な工夫・努力により事業を進めてきたことは評価したい。 一定の成果が上がる中で、次の10年間をどのようにやっていくのか、方向性を地域の施策として定めていく必要がある。 その際に、これまで絡めてこなかったテーマ(ex.食文化など)を新たな基軸として打ち出すことも検討してほしい。
	R1	<ul style="list-style-type: none"> これまでの着実な事業の実施により生み出した成果は高く評価できる。地元企業等との連携については、さらなる発展が期待できる。今後は、周辺地域との連携も意識し、パートナーを広げていけると良い。 アーティストインレジデンス事業は、日常の表現を支えるものと、バザールなどイベント系のもとのバランスよく実施できており、黄金町の特色を出している。これまで培った海外とのネットワークを途切れさせることのないよう、オンライン等への展開など、柔軟な対応が望まれる。 黄金町の取組は世界的にみてもモデルケースになり得るので、しっかりと取組をアーカイブして発信すること、次の取組に生かしていくことを期待する。
H30	<ul style="list-style-type: none"> これまで10年以上、着実に取組を継続してきたことで、収益面以外の成果(文化の耕し)が出ている。 レジデンスアーティストの海外での展示機会が増えているほか、卒業時には周辺物件を紹介する等、積極的な一貫した支援ができています。実際に周辺に残るアーティストが増加傾向にあることは高く評価できる。 多岐に渡る業務をこなしているが、マンパワーに見合った事業計画が、成果が出ているか、収支のバランスがとれているか、事業ごとに適宜振り返り、改善・整理していけると良い。 	

令和6年度 事業評価シート

【基本情報】

拠点名称	象の鼻テラス	基本方針	①創造都市横浜の推進のため、文化観光交流拠点として、質の高いアートプログラムを国内外に向けて発信する ②象の鼻パークとの一体的活用により、利用者の利便性や象の鼻パーク全体のブランド力向上を目指す
運営期間	令和2年度～令和6年度(5年目/5年間)		
運営団体	株式会社ワコールアートセンター		

【事業計画及び事業評価】

I 運営/経営評価		実施結果	仮評価			
評価軸			自己評価	委員会評価		
1 無料休憩スペース/観光インフォメーション運営	1 市民に開かれた無料休憩スペースを運営	<ul style="list-style-type: none"> ●来場者数は、472,592人で昨年比87%だった。1日平均1,342人(昨年比91%)／休日2,450人(昨年比91%)／平日750人(昨年比84%)。最多来館者は12月7日、FSPイベントの2日目で、8,705人(昨年比92%)となった。 ●年中無休10時-18時の開館が可能な体制づくりに努め、天候不良による臨時閉館の例外を除いて、安全安心の運営を実現した。さらにイベント等で開館時間を延長するなど時間外活用にも取り組んだ。 ●催事稼働日数は、223日(昨年比126%)。主催・協力連携含め、壁面展示型のプログラムを多く実施し(12件)、毎週末のマルシェをはじめとしたイベントも多数開催。夜間の時間外活用も積極的に行った。 ●観光インフォメーションは、土日祝日を中心に市民ボランティアガイドの自発的な活動による観光案内を実施。ガイド発案のイベントも定期的に開催。よみうりカルチャー主催による市民ガイドの講師参加も3回実施となり、発展的に展開している。 ●他団体によるスタンブラリーの実施ポイントとして積極的に参加し、周辺との協力関係を構築しつつ、回遊性向上の一助になるよう努めている。 ●利用者の要望を知るため、定期的にアンケートを収集。(回答数インフォメーション:208件、カフェ主導プロジェクト内アンケート:145件) 	<ul style="list-style-type: none"> ●来場者の減少について、昨年度はコロナ禍前の2019年度と同等の水準まで回復したが、今年度は下がってしまった。後述の通りイベント数では昨年を上回るが、展示型が多かったため来場数には影響がなかった。要因には、7月の例年より高い気温で真夏日の増加といった気候の悪条件が多く出控えにつながったこと(近隣も同様とき)、集客型イベントの実施タイミングのずれを想定する。また、カウンター機器の不具合の可能性もあり、2025年度の計画に向け詳しく原因を精査し解決策を講じたい。 ●展示型の催しが多かったこともあり、稼働日数は昨年より多かった。日常的なアート体験が可能な空間づくりはコンセプトの一つであったため、実現できたことは成果である。 ●例年通り市民参加型を意識したイベントの実施に取り組んでおり、市民にひらかれた場づくりが実現している。 ●ETBのボランティアガイド発案のイベントは、事前の電話問い合わせも多く、周辺エリアでは似た名前の催しが出るなど、定着し認知度が高まっている。 ●定数・定性で評価していくため、象の鼻テラス/カフェ、主要プロジェクトにてアンケートを実施。都度運営に反映するよう心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●継続して安定的な運営がされており、評価できる ●SUITAKUやシティガイドボランティアとの連携によって周辺の観光振興へも寄与している。 		
	2 観光インフォメーションの運営				<ul style="list-style-type: none"> ●象の鼻テラス常勤スタッフは6人体制でスタートしたが、9月より1名が産休で、5人体制で運営した。イベントごとに人員が不足する際は外部スタッフで補うことで、通常時とのメリハリをつけ効率的な運営にあたっている。 ●昨年度より取り組んでいる「主催イベントスケジュールの早期決定および、協力催事の実施フローの標準化」を意識して推進。労働負荷改善と業務内容の充実に向け確実な運営に努めた。 ●消防訓練は例年通り実施。防災訓練はこれまで常勤スタッフのみで実施していたが市民ボランティアへも声かけし3月に実施した。 ●各分野に精通するスタッフによりチームを編成し、それぞれの事業の企画・推進に取り組んでいる。各プロジェクトの主担当・副担当・フォロワー担当者を明確にし、年間を通した推進・実施振り返りを行うことで今後の業務向上に繋げている。 ●外部催事の視察やセミナー等への参加など、各スタッフ自身が専門性を磨く時間を当てられるようサポート体制を整えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●常勤スタッフ数で年中無休の対応にあたるため、緊密な情報共有が重要であるが、ツールを活用することで滞りなく実施できており、作業内容も属人化しないような推進を心がけ、達成しつつある。 ●緊急時の体制の整備として、災害時用の訓練の参加対象をボランティアに広げて実施することは防災意識が高まり良い機会であるため、今後もテラスに関わる人に広く参加してもらうことを検討したい。 ●お客様が熱中症で具合が悪くなったり、怪我をした来場者の救護にあたることも度々あった。会社内では「安全衛生環境委員」として、スタッフ、保健師さんとの定例会による情報共有を行っており、適切な対応ができるよう指導の体制がある。
	3 利用者の利便性向上に資する取組					
2 運営体制	1 スタッフの配置状況(役割・人数)、勤務体制	<ul style="list-style-type: none"> ●広報は、公式ウェブサイト、SNS、外部サイトでの書き込みを中心とした情報発信を実施している。協力催事、連携事業を実施することにより、広報活動の相乗効果にも繋げている。 ●SNSに関する統計 ○Facebook: いいね! : 4,159人(前年比:100%/ +0人) フォロワー: 4,359人(前年比:100%/ +25人) ○X(旧Twitter): フォロワー: 5,012人(前年比:101%/ +96人) ○Instagram: フォロワー: 3,032人(前年比:133%/ +763人) ○Youtube: チャンネル登録数: 107人(前年比:105%/ +6人) 【プラス掲載数】767件(前年度比87%) ●昨年度より確立したSNS発信のフローをルーティン化・フォーマット化により、日常的な投稿に努めた。見やすさ、伝わる画の作り方など工夫を凝らした。 ●各イベントの広報活動について、ターゲットを工夫したSNS広告を活用した。 ●事業ごとに可能な範囲で写真家による記録写真を残すようにしている。静止画だけでなく、動画やタイムラプスなどプログラム内容の特性によって趣向を変えより良い手段を講じている。 ●FUTURESCAPE PROJECTは記録集を作成。 ●外部講演への参加(4回)や、PORT JOURNEYS、FSPなど文化芸術事業内で海外都市とともに参加するラウンドトーク(2回)などにより創造都市横浜の魅力発信に繋げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ウェブサイトのリニューアルは好評で、トップページの画像にある音楽LIVEのイメージが気に入りにイベントを実施したいという問い合わせにつながることがあった。随時、伝えたいことと手法を行き来しながら活用を進めていく。 ●FUTURESCAPE PROJECTでSNS広告を活用。アンケート結果の中でも広告を見て参加したとの声があり、イベント集客に確実につながっている。 ●SNSはインスタグラムを中心にした発信としている。フォロワー数は着実に増えているものの、まだまだ伸びるがあると考え。手法について社内での専門スタッフの意見も得ながら、今後成長させることを目指す。 ●個人情報取扱のルール上、メルマガ配信ができず、また代替案が見つけられておらず、現状1通1通メール送信しており、課題である。メールに限らず、横浜市のリソースで活用させていただけることがあったら紹介いただきたい。たとえば、駅でのポスター掲出など。 また、市庁舎内で創造界隈についてアピールされていることが少ないことも課題に感じる。イベントも多数行われているので、創造都市政策に関するPRができるのではないかと考える。 			
	2 緊急時の体制			<ul style="list-style-type: none"> ●象の鼻テラス常勤スタッフは6人体制でスタートしたが、9月より1名が産休で、5人体制で運営した。イベントごとに人員が不足する際は外部スタッフで補うことで、通常時とのメリハリをつけ効率的な運営にあたっている。 ●昨年度より取り組んでいる「主催イベントスケジュールの早期決定および、協力催事の実施フローの標準化」を意識して推進。労働負荷改善と業務内容の充実に向け確実な運営に努めた。 ●消防訓練は例年通り実施。防災訓練はこれまで常勤スタッフのみで実施していたが市民ボランティアへも声かけし3月に実施した。 ●各分野に精通するスタッフによりチームを編成し、それぞれの事業の企画・推進に取り組んでいる。各プロジェクトの主担当・副担当・フォロワー担当者を明確にし、年間を通した推進・実施振り返りを行うことで今後の業務向上に繋げている。 ●外部催事の視察やセミナー等への参加など、各スタッフ自身が専門性を磨く時間を当てられるようサポート体制を整えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今期は夏の空調の不具合など緊急を要するものが多く、市側でも迅速に対応していただく場面が多々あったが、修繕の箇所と優先順位を定例を中心にやり取りし、安心安全な運営ができるようにしている。 ●トイレなどの修繕は頻度が高くなっている。電球に関しては、機器自体の不具合で接触不良によるものもあり、全体的に見直す必要がある。 ●修繕では、優先度の問題で持ち越していることがいくつかあり、課題である。維持管理の上で緊急性なくとも美的に問題があるため、早めの改善を希望する。いくつかはすでに市担当を通じて港湾局に申し入れ済みであるが改めて列挙する。 パークの芝生の窪み、屋外灯(ともなって赤いコーンの常設化)、パーク内石タイルの浮き、軒下の雨染み、側溝の断熱材の剥き出し、フローリングのあばれ ●イベント参加者と休憩室の一般利用者などが共存する環境を案件ごとにレイアウトを工夫し整えているが、室内のスペースは限りがある。パークに広がってテーブルなどを配置したり、イベントを実施することが、事前申請なく自由に行えるようなかたちが取れることが望ましい。 	
	3 スタッフのスキルアップ、モチベーションアップ、ワークライフバランスのための取組					<ul style="list-style-type: none"> ●設備点検を定期的に実施。トイレの修繕や経年による損傷箇所など、必要な修繕の案件が年々多くなっているが、市担当者情報共有しながら順次対応にあたっている。 ●小規模修繕では、トイレでの水回りに関する修繕、電気の球切れ交換、入場者カウンターの整備などを実施。年度末には壁面の塗装を完了させた。 ●清掃について、気になる箇所が見受けられたら、指導を随時行い改善している。 ●災害時の安全対策として、来場者向けに他団体が発行する災害時マップの情報を入手できるように掲示を常設させた。地震による展示物や施設備品などの破損・落下は発生していない。 ●イベントの運営ではマニュアル作成と運営計画に基づいて実施することで安全対策を講じている。
3 施設の維持管理	1 施設の維持管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ●設備点検を定期的に実施。トイレの修繕や経年による損傷箇所など、必要な修繕の案件が年々多くなっているが、市担当者情報共有しながら順次対応にあたっている。 ●小規模修繕では、トイレでの水回りに関する修繕、電気の球切れ交換、入場者カウンターの整備などを実施。年度末には壁面の塗装を完了させた。 ●清掃について、気になる箇所が見受けられたら、指導を随時行い改善している。 ●災害時の安全対策として、来場者向けに他団体が発行する災害時マップの情報を入手できるように掲示を常設させた。地震による展示物や施設備品などの破損・落下は発生していない。 ●イベントの運営ではマニュアル作成と運営計画に基づいて実施することで安全対策を講じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今期は夏の空調の不具合など緊急を要するものが多く、市側でも迅速に対応していただく場面が多々あったが、修繕の箇所と優先順位を定例を中心にやり取りし、安心安全な運営ができるようにしている。 ●トイレなどの修繕は頻度が高くなっている。電球に関しては、機器自体の不具合で接触不良によるものもあり、全体的に見直す必要がある。 ●修繕では、優先度の問題で持ち越していることがいくつかあり、課題である。維持管理の上で緊急性なくとも美的に問題があるため、早めの改善を希望する。いくつかはすでに市担当を通じて港湾局に申し入れ済みであるが改めて列挙する。 パークの芝生の窪み、屋外灯(ともなって赤いコーンの常設化)、パーク内石タイルの浮き、軒下の雨染み、側溝の断熱材の剥き出し、フローリングのあばれ ●イベント参加者と休憩室の一般利用者などが共存する環境を案件ごとにレイアウトを工夫し整えているが、室内のスペースは限りがある。パークに広がってテーブルなどを配置したり、イベントを実施することが、事前申請なく自由に行えるようなかたちが取れることが望ましい。 			
	2 施設の小規模修繕・改善状況			<ul style="list-style-type: none"> ●設備点検を定期的に実施。トイレの修繕や経年による損傷箇所など、必要な修繕の案件が年々多くなっているが、市担当者情報共有しながら順次対応にあたっている。 ●小規模修繕では、トイレでの水回りに関する修繕、電気の球切れ交換、入場者カウンターの整備などを実施。年度末には壁面の塗装を完了させた。 ●清掃について、気になる箇所が見受けられたら、指導を随時行い改善している。 ●災害時の安全対策として、来場者向けに他団体が発行する災害時マップの情報を入手できるように掲示を常設させた。地震による展示物や施設備品などの破損・落下は発生していない。 ●イベントの運営ではマニュアル作成と運営計画に基づいて実施することで安全対策を講じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今期は夏の空調の不具合など緊急を要するものが多く、市側でも迅速に対応していただく場面が多々あったが、修繕の箇所と優先順位を定例を中心にやり取りし、安心安全な運営ができるようにしている。 ●トイレなどの修繕は頻度が高くなっている。電球に関しては、機器自体の不具合で接触不良によるものもあり、全体的に見直す必要がある。 ●修繕では、優先度の問題で持ち越していることがいくつかあり、課題である。維持管理の上で緊急性なくとも美的に問題があるため、早めの改善を希望する。いくつかはすでに市担当を通じて港湾局に申し入れ済みであるが改めて列挙する。 パークの芝生の窪み、屋外灯(ともなって赤いコーンの常設化)、パーク内石タイルの浮き、軒下の雨染み、側溝の断熱材の剥き出し、フローリングのあばれ ●イベント参加者と休憩室の一般利用者などが共存する環境を案件ごとにレイアウトを工夫し整えているが、室内のスペースは限りがある。パークに広がってテーブルなどを配置したり、イベントを実施することが、事前申請なく自由に行えるようなかたちが取れることが望ましい。 	
	3 安全対策、安全管理体制					<ul style="list-style-type: none"> ●設備点検を定期的に実施。トイレの修繕や経年による損傷箇所など、必要な修繕の案件が年々多くなっているが、市担当者情報共有しながら順次対応にあたっている。 ●小規模修繕では、トイレでの水回りに関する修繕、電気の球切れ交換、入場者カウンターの整備などを実施。年度末には壁面の塗装を完了させた。 ●清掃について、気になる箇所が見受けられたら、指導を随時行い改善している。 ●災害時の安全対策として、来場者向けに他団体が発行する災害時マップの情報を入手できるように掲示を常設させた。地震による展示物や施設備品などの破損・落下は発生していない。 ●イベントの運営ではマニュアル作成と運営計画に基づいて実施することで安全対策を講じている。
4 広報活動	1 象の鼻テラス及び各事業の効果的な広報活動・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ●広報は、公式ウェブサイト、SNS、外部サイトでの書き込みを中心とした情報発信を実施している。協力催事、連携事業を実施することにより、広報活動の相乗効果にも繋げている。 ●SNSに関する統計 ○Facebook: いいね! : 4,159人(前年比:100%/ +0人) フォロワー: 4,359人(前年比:100%/ +25人) ○X(旧Twitter): フォロワー: 5,012人(前年比:101%/ +96人) ○Instagram: フォロワー: 3,032人(前年比:133%/ +763人) ○Youtube: チャンネル登録数: 107人(前年比:105%/ +6人) 【プラス掲載数】767件(前年度比87%) ●昨年度より確立したSNS発信のフローをルーティン化・フォーマット化により、日常的な投稿に努めた。見やすさ、伝わる画の作り方など工夫を凝らした。 ●各イベントの広報活動について、ターゲットを工夫したSNS広告を活用した。 ●事業ごとに可能な範囲で写真家による記録写真を残すようにしている。静止画だけでなく、動画やタイムラプスなどプログラム内容の特性によって趣向を変えより良い手段を講じている。 ●FUTURESCAPE PROJECTは記録集を作成。 ●外部講演への参加(4回)や、PORT JOURNEYS、FSPなど文化芸術事業内で海外都市とともに参加するラウンドトーク(2回)などにより創造都市横浜の魅力発信に繋げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ウェブサイトのリニューアルは好評で、トップページの画像にある音楽LIVEのイメージが気に入りにイベントを実施したいという問い合わせにつながることがあった。随時、伝えたいことと手法を行き来しながら活用を進めていく。 ●FUTURESCAPE PROJECTでSNS広告を活用。アンケート結果の中でも広告を見て参加したとの声があり、イベント集客に確実につながっている。 ●SNSはインスタグラムを中心にした発信としている。フォロワー数は着実に増えているものの、まだまだ伸びるがあると考え。手法について社内での専門スタッフの意見も得ながら、今後成長させることを目指す。 ●個人情報取扱のルール上、メルマガ配信ができず、また代替案が見つけられておらず、現状1通1通メール送信しており、課題である。メールに限らず、横浜市のリソースで活用させていただけることがあったら紹介いただきたい。たとえば、駅でのポスター掲出など。 また、市庁舎内で創造界隈についてアピールされていることが少ないことも課題に感じる。イベントも多数行われているので、創造都市政策に関するPRができるのではないかと考える。 			
	2 創造都市横浜のPRにつながる広報活動・情報発信			<ul style="list-style-type: none"> ●ウェブサイトのリニューアルは好評で、トップページの画像にある音楽LIVEのイメージが気に入りにイベントを実施したいという問い合わせにつながることがあった。随時、伝えたいことと手法を行き来しながら活用を進めていく。 ●FUTURESCAPE PROJECTでSNS広告を活用。アンケート結果の中でも広告を見て参加したとの声があり、イベント集客に確実につながっている。 ●SNSはインスタグラムを中心にした発信としている。フォロワー数は着実に増えているものの、まだまだ伸びるがあると考え。手法について社内での専門スタッフの意見も得ながら、今後成長させることを目指す。 ●個人情報取扱のルール上、メルマガ配信ができず、また代替案が見つけられておらず、現状1通1通メール送信しており、課題である。メールに限らず、横浜市のリソースで活用させていただけることがあったら紹介いただきたい。たとえば、駅でのポスター掲出など。 また、市庁舎内で創造界隈についてアピールされていることが少ないことも課題に感じる。イベントも多数行われているので、創造都市政策に関するPRができるのではないかと考える。 		
	3 事業のアーカイブの作成、発信(出版物、映像資料等)				<ul style="list-style-type: none"> ●ウェブサイトのリニューアルは好評で、トップページの画像にある音楽LIVEのイメージが気に入りにイベントを実施したいという問い合わせにつながることがあった。随時、伝えたいことと手法を行き来しながら活用を進めていく。 ●FUTURESCAPE PROJECTでSNS広告を活用。アンケート結果の中でも広告を見て参加したとの声があり、イベント集客に確実につながっている。 ●SNSはインスタグラムを中心にした発信としている。フォロワー数は着実に増えているものの、まだまだ伸びるがあると考え。手法について社内での専門スタッフの意見も得ながら、今後成長させることを目指す。 ●個人情報取扱のルール上、メルマガ配信ができず、また代替案が見つけられておらず、現状1通1通メール送信しており、課題である。メールに限らず、横浜市のリソースで活用させていただけることがあったら紹介いただきたい。たとえば、駅でのポスター掲出など。 また、市庁舎内で創造界隈についてアピールされていることが少ないことも課題に感じる。イベントも多数行われているので、創造都市政策に関するPRができるのではないかと考える。 	
	4 海外を意識した情報発信(バイリンガル対応等)					<ul style="list-style-type: none"> ●ウェブサイトのリニューアルは好評で、トップページの画像にある音楽LIVEのイメージが気に入りにイベントを実施したいという問い合わせにつながることがあった。随時、伝えたいことと手法を行き来しながら活用を進めていく。 ●FUTURESCAPE PROJECTでSNS広告を活用。アンケート結果の中でも広告を見て参加したとの声があり、イベント集客に確実につながっている。 ●SNSはインスタグラムを中心にした発信としている。フォロワー数は着実に増えているものの、まだまだ伸びるがあると考え。手法について社内での専門スタッフの意見も得ながら、今後成長させることを目指す。 ●個人情報取扱のルール上、メルマガ配信ができず、また代替案が見つけられておらず、現状1通1通メール送信しており、課題である。メールに限らず、横浜市のリソースで活用させていただけることがあったら紹介いただきたい。たとえば、駅でのポスター掲出など。 また、市庁舎内で創造界隈についてアピールされていることが少ないことも課題に感じる。イベントも多数行われているので、創造都市政策に関するPRができるのではないかと考える。

II創造性／政策達成評価		評価の着眼点	事業計画(要旨)	実施結果	仮評価	
評価軸					自己評価(成果・変化)	委員会評価
1	創造都市横浜の推進のため、文化観光交流拠点として、質の高いアートプログラムを国内外に向けて発信する	<p>質の高いアートプログラムを国内外に向けて発信する事業</p> <p>□新規性・独自性の高い活動並びに象の鼻地区の特性を生かした国際性の高い事業の展開</p> <p>□多様なアーティスト、クリエイターへの活動の場の提供</p> <p>□多様な文化芸術活動主体との連携</p>	<p>[今年度のテーマ]</p> <p>新しい「文化芸術創造都市」の推進に向け試行する年へ</p> <p>[5つの事業コンセプト]</p> <p>・オープン ・賑わい ・コラボレーション ・アーティストは伴奏者 ・安心安全</p> <p>[取り組みのポイント]</p> <p>1 質の高いアートプログラムの展開(想定する事業)ギャラリーシリーズ／ポート・ジャーニー・プロジェクト／BALLET PROJECT</p>	<p>●質の高いアートプログラムの展開</p> <p>ギャラリーシリーズでは、今年度は、黄金町に滞在するアリアネ・メルシエ＝ポーと堀江和真展の2つの展覧会を実施。期間中トークイベントや、アーティストが仲間を巻き込み関連イベントを多数開催した。ポート・ジャーニー・プロジェクトでは、横浜トリエンナーレとの連携企画「アートもりもり」として展示を行った。主要メンバーの一人Michael Kressによる映像と音のインスタレーションと、公募により集まった平面作品が並んだ。合わせてトークイベントを2回実施、30名ほどが参加した。BALLET PROJECTでは、安藤洋子によるワークショップを6月から1月1回開催している。今年度は、10回開催、55名(参加者総数106名)である。</p> <p>●市民のクリエイティビティが発揮できる事業展開</p> <p>FUTURESCAPE PROJECTでは、子どもから大人まで一緒に参加できるプログラムを軸に構成した。また、大学参加枠は6チーム7作品、個人が参加するものとしてフォトコンテストでは145点の応募があった(昨年比152%)。ダンス緑日は過去最多の68組1,433人の市民ダンサーが参加。ダンス緑日の音楽版として昨年度よりスタートさせた事業も継続させ、8組の市民音楽団が参加。ぞうさんマルシェでも、新規参加が17店舗と、着実に得ながら参加数を拡大している。</p>	<p>●ギャラリーシリーズでは、2組の異なるタイプの作家の展示となった。アリアネ展は新聞にも取り上げられ、作品の理解を深めることにつながった。堀江展では、空間全体に散りばめる展示方法を取り、来場者が作品の中に入り込むようなアート体験につながった。来場者が手を加えて一緒に絵を作るような仕掛けをし、すぐに画面いっぱい埋めつくされるほど来場者の興味を引いた。</p> <p>●ポートジャーニーの公募は「地球を未来に繋ぐため、”今”できる行動のアイデア」をテーマとし、国内外合わせて128もの作品が集まり会場を埋め尽くした。平面作品のみを集めたもので、会場では親子で会話しながら興味深く鑑賞する姿もみられ、コミュニケーションを誘発したことは成果だと考える。</p> <p>●BALLET PROJECTのワークショップでは、参加者層の広がりがうまれている。昨年度のZAGAKUをきっかけに興味を持った社員がいたり、年代も中学生からシニアまで多世代が同じ時間を共有する幅広いプログラムへと変化している。</p> <p>●ダンス緑日の参加者が過去最多を記録したことは大きな成果である。人数が増え、鑑賞スペースの確保やステージ上での混雑緩和などこれまでのノウハウが継承され安全な運営ができていたことも成果である。来場者数の減少について先述したが、ダンス緑日を本格開催した8月は前年比115%で賑わいづくりに大きく寄与している。同じスキームで展開するワールドミュージックは8組にとどまっているが、参加者数が増加した際も推進体制が整えられるよう、ノウハウを蓄積していきたい。</p> <p>●ぞうさんマルシェは通常マルシェのほかテーマを持たせたマルシェも、他団体と連携しながら多数開催している。テーマについては恒例化したもの多く、定着しており、集客イベントとして着実に賑わい創出につながっている。</p> <p>●鶴見区のパブリックアートプロジェクトは、フェスティバル形式の開催からリニューアルした展開であったが、地域の恒例行事「ハロウィンフェスティバル」と同時開催によりお披露目展示を実施した結果、保護者含めて約1,000口と、昨年実績並みの集客となり、約2200名の来場者数を記録している。アンケート結果からも好意的な意見が多数で、今後も含めた期待感が実感できた。協賛協力企業・団体数は20社以上、運営スタッフも述べ100名ほどで、関係人口の広がりも生みだしている。港南区で実施した「ひかりの実」も、体験と展示により多くの人々の関心をひき、アンケート結果も好意的な意見が多数だった。もともと文化への関心度の低さに課題をもちはじめた事業だったが、変化に繋がれるよう継続していきたい。</p> <p>●スナックゾウノハナは、パッケージ的な展開を模索したが2件にとどまった。定期的な開催にすることで認知拡大になると考えるため、今後の展開方法を考え直したい。</p> <p>●市事業との連携が数多く実現したことは大きな成果である。事業連携は賑わいに寄与すること、広域的な拡がりなどさまざまな効果につながっている。創造界限拠点連携は、より結束を高める好機になり創造都市を面として発信することにつながる取り組みとなった。</p> <p>協力団体も毎年、レポートして活用いただく団体と新規団体とがあり、関係人口の広がりを生み出している。</p> <p>●館内作品展示を補完する機会として実施したイベントも、トークにとどまらず、マルシェのスキームの中で実施するなど、象の鼻テラスならではの展開が生み出せている。</p> <p>●カフェメニューに関するSNSの反応はとても良いことから、特別メニューのバリエーションに富んだ展開を、効果的に発信力強化に繋げていくことが必須であるが、まだそのノウハウを確立できておらず、今後の課題である。</p>	
		<p>まちづくり、賑わいづくりに資する事業</p> <p>□都市文化観光への寄与</p> <p>□都心臨海部の立地環境、歴史性を意識した企画・活動</p> <p>□市民のQOL向上につながる事業展開</p>	<p>2 市民のクリエイティビティが発揮できる事業展開と新しいプレイヤーの参加の獲得(想定する事業)FUTURESCAPE PROJECT／ダンス緑日／ワールドミュージック／ぞうさんマルシェ／BALLET PROJECT</p>	<p>●テラスの活動の郊外展開</p> <p>郊外展開は、鶴見区と港南区で実施した。鶴見では、新たに「鶴見パブリックアートプロジェクト」を立ち上げた。地域住民から壁面を募集し、公募で集まったアーティストが壁面を施すプロジェクトである。会場は16箇所、招待アーティスト5組と、公募アーティスト11組、特別参加として小学生ら71人が表現者として参加した。本事業では日本ペイント株式会社の塗料協賛のほか、多数の協賛を得て実現している。</p> <p>港南区は、区が主導になり区民向けのプログラムとして実施。高橋匡太のひかりの実を展開した。事前と当日を合わせ600個のひかりの実を制作した。</p>		
		<p>市民にとってより身近で開かれた事業</p> <p>□市民参加プログラム、教育プログラムの充実</p> <p>□市内教育機関、文化施設等との連携</p> <p>□ガイドボランティアの自立性強化</p>	<p>3 テラスの活動の郊外展開(想定する事業)ポート・ジャーニー・プロジェクト／アトリエゾウノハナ</p> <p>4 象の鼻テラスの活動のパッケージ化(想定する事業)SNACK ZOU-NO-HANA</p> <p>5 事業の効率化と運営費拡充の模索(想定する事業)アトリエゾウノハナ／ぞうさんマルシェ／ダンス緑日／ワールドミュージック</p>	<p>●活動のパッケージ化</p> <p>SNACK ZOU-NO-HANAが他催事と連携した展開を模索し、今回はTokyo Gendaiの連携、FUTURESCAPE PROJECTの会場演出のなかで実施した。</p> <p>●事業の効率化と運営費拡充の模索</p> <p>ぞうさんマルシェやダンス緑日、ワールドミュージックでは、参加者から参加費を徴収することで運営費を拡充している。ダンス緑日とワールドミュージックは同じスキームで実施しており、ダンス緑日で培ったノウハウが多展開できている。</p>		
		<p>協力事業</p> <p>□横浜市主催事業、横浜市の政策に沿った事業、創造界限拠点と連携した事業等との協力・連携</p>	<p>6 横浜市事業との連携・協力体制の深化(想定する事業)横トリ連携屋外パブリックアート展示／横トリ連携PORTJOURNEYS展示／Tokyo Gendai連携SNACK ZOU-NO-HANA／ヨルノヨ連携FUTURESCAPE PROJECT</p>	<p>●今期は市事業と連動した取り組みを数多く実現した。横浜トリエンナーレとの連携企画で久保寛子「ハイスウェレの彫像」の展示、ポート・ジャーニー・プロジェクトの展示／創造都市20周年の取り組みで創造界限拠点と協働企画、クリエイティブCOOPの運営、創造都市スクールのトークや講義への参加／Tokyo GendaiでSNACK ZOU-NO-HANA企画実施／ヨルノヨ2024のアートプログラムでACYと協働／YPAMでFUTURESCAPE PROJECTが連携しフリンジ参加アーティストの受け入れ／日中韓都市間文化交流で芸術団を受け入れ。ほか、区が推進する2027年花博の機運醸成イベントで会場を活用した。協力催事では、例年通りイベントの実施希望の団体が多く、42件のプログラムを実施、13組の新規利用団体があった。</p>		
		<p>館内作品展示業務</p> <p>□日常的に質の高いアート作品・映像作品の展示</p> <p>□利用者に対する観覧案内・サポート</p>	<p>(想定する事業)ギャラリーシリーズ／ポート・ジャーニー・プロジェクト／BALLET PROJECT</p>	<p>●展示作品を多く取り入れ、日常的にアートを体験する機会の創出を目指した。ハイスウェレの彫像やポートジャーニーの展示では、アーティストによるトークイベントを合わせて開催し展示コンセプトを紐解くイベントを実施したり、ギャラリーシリーズではアーティストが可能なかぎり会場内に滞在し、展示にまつわる体験プログラムを展開するなど、鑑賞するだけにとどまらないよう工夫を凝らした。</p>		
<p>6</p> <p>6 便益施設(カフェ)運営</p> <p>□カフェからの積極的な文化発信</p>	<p>7 発信力の強化／限定メニュー、特別メニューの展開／近隣施設との連携</p>	<p>●テラスの事業に合わせた特別メニューの展開を、今年度も多数実施した。横浜トリエンナーレテーマの「野草」に合わせたソフトクリームメニュー、花博関連企画のイベント時でのエディブルフラワーを散らしたピザなどオリジナルティあふれるメニューを考案した。消防局の実施する出初式でのメニューコラボなども積極的に参加し、発信力にもつなげている。</p>				
<p>2</p> <p>2 象の鼻パークとの一体的活用により、利用者の利便性や象の鼻パーク全体のブランド力向上を目指す</p>	<p>1</p> <p>1 公共空間の活用</p> <p>□象の鼻パークとの一体的活用・ノウハウの蓄積</p> <p>□象の鼻地区の魅力を向上させる活動</p>	<p>8 象の鼻パーク一体活用のさらなる促進(想定する事業)FUTURESCAPE PROJECT／SNACK ZOU-NO-HANA(キッチンカーの誘致イベント)</p>	<p>●今年度のテーマは「港の夜の夢」とし、子どもにとっても楽しい一夜を演出することにフォーカスし、さまざまな体験型作品を中心に構成した。ライブパフォーマンス系のプログラムが多く、子どもと一緒にきたファミリー層といった来場者が楽しめている様子がうかがえた。ギョミットが市民と一緒に絵を描くプログラムや、その上でタップダンスのワークショップをするプログラムでは、その場に居合わせた人の飛び込み参加も多く、盛り上がった。今年度は、フランスから招聘したアーティスト、日中韓都市間文化交流により中韓の芸術団、YPAMフリンジにより香港のパフォーマーが参加するなど、海外4都市から参加があり、国際色豊かな演目が一堂に介した。各日3-4台のキッチンカーを配置し、パーク内の賑わいにつなげた。</p>	<p>●今年度は、予算状況と、ACYが実施するプログラムが1週ずれたことでBゾーンでの展開がなく、Aゾーンに集約したが、来場者数は18,346(象の鼻テラス出入口入館者カウンター調べ)で、昨年比163%と増加しており、マイナスにはならなかった。ヨルノヨ2024のオープン最初の週末に合わせた開催ということもあって多くの賑わいがあり、本事業も寄与できたと考える。アンケート結果での来場のきっかけをみると「たまたま通りかかった」は35%(昨年度と同)で、パーク内の展示物や催しが目を惹き立ち寄るきっかけになったと考える。こういった層はテラスの認知拡大の裾野を広げるものであり、今後、パークでの展開を日常的に実施できるよう、申請フローの簡略化など、ノウハウとして蓄積していくことを目指したい。</p>		

総評	<ul style="list-style-type: none"> 安定して質の高い取組を行っている点は高く評価できる。 また、鶴見区や港南区など都心臨海部エリア以外でもプロジェクトを展開しており、創造都市の施策をより身近な場所で感じられる取組として評価できる。 	<p>【市の取り組むべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家の鼻テラスが実施するプロジェクトが効果的に行えるよう、行政として必要な支援を行っていく。 鶴見区など、新たに展開している事業に対しても、これまでの都心臨海部での取組と同様に必要な支援を行っていく。
----	--	--

これまでの総評	R5	<ul style="list-style-type: none"> 報告書にアンケートなどを通じた来場者の属性や声をデータとして積極的に盛り込んでいるので、経年変化が把握しやすくなって、マーケティングとしても有用であり評価できる。実際に好意的な意見が多いことを見る化できた。 一見すると同一事業を継続しているように見えるが、常に新しい考えや工夫を取り入れ、更新しているものであり、着実に前進していると評価できる。 横浜トリエンナーレや他の拠点との連携は創造都市の取組を顕在化、強化させるものであり評価できる。 拠点自体が次の世代の担い手を育てようとしている取組は、20年の実績、積み重ねが出てきているからこそと評価できる。
	R4	<ul style="list-style-type: none"> 象の鼻テラスらしい質の高いプログラムを多数実施しており、非常に充実したコンテンツとなっていることは評価できる。 事業を行うことによって何が変化しどう影響があったか、事業の成果を広く浸透させていくためにも、数値などの目標を共有し確認していく必要もある。
	R3	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍においてもこれだけの活動を行い、実績を積み上げたことは高く評価できる。 これまでの成果を次の担い手へ繋いでいくことにも重点を置いてほしい。育てたところが主体的に活動していけるような事例を増やし、持続可能な発展をしていくことが望まれる。 事業内容は充実しているので、市民のクオリティ・オブ・ライフをどのように高めたのかといった社会的インパクトの観点からの成果を見える化することも求められている。
	R2	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍においても、基本方針の達成に向けて様々な工夫の中で事業を進められてきたことは高く評価できる。 事業の選択と集中が進んだことで洗練されてきており、特に、市民参加型を中心とした事業は、象の鼻テラスらしい個性が明確になってきている。 体制や事業内容は充実してきているが、事業運営の方法等の工夫の余地はまだあるため、現状の手法にこだわらずにチャレンジしてほしい。
	R1	<ul style="list-style-type: none"> 国有地、港湾施設として制約が多い施設運営にもかかわらず、市民を対象とした質の高い多彩なプログラムを実施し定着させている。10年間に築き上げた実績は大きい。 これからの5年、10年を見据えたうえでフューチャースケープ・プロジェクトのような意欲的なプロジェクトを実施し、新たな可能性と方向性を見つけたことは評価できる。 アート・プログラムのターゲットがなかなか絞り込めないという難しさがある中で、市民に開かれたプログラムを着実に実施してきている。

令和6年度 事業評価シート

【基本情報】

拠点名称	急な坂スタジオ	基本方針	①アーティストが作品を「つくる」支援と、その体制を「ととのえる」支援【サポートアーティスト制度の拡充】 ②次代を担う人材(アーティスト・観客双方)が出逢う場所【学びと交流を目的とした事業展開】 ③誰もが安心して使える稽古場【状況に応じて柔軟な利用を可能にすると同時に安定した稽古場経営の徹底】 ④新しいディレクターの育成【アーティストを支える人材の世代交代による、10年先を見通す新体制の確立】
運営期間	令和4年度～令和8年度(3年目/5年間)		
運営団体	特定非営利活動法人アートプラットフォーム		

【事業計画及び事業評価】

I 運営/経営評価			実施結果	評価	
評価軸				自己評価	委員会評価
1	経済的な基盤の確立	1 全体事業収支	2025年1月時点ではほぼ昨年度同様だが、夏季空調料金が高額だったので、最終的な数字を見て、今後の管理費に関して検討した	夏季の空調料金が、ひと月に50万円以上かかっている。安い料金設定の会社に切り替えてもこの状況なので、今後の対策について 至急検討が必要である 。また、利用の条件を緩和したことにより、タキキ場や撮影場所としての稼働も増えてきたので、利用料収入アップに繋げていきたい。	まず、安定した運営を目指していただきたい。また、若手の演劇集団などの新規顧客や事業の開拓、マーケティングへの工夫もあると良いと思われる。 コロナ以降の物価その他の上昇が一方にあり、市からの補助は増えない状況で、よく努力している。稼働率が戻らない原因を利用者や(これまでに利用したことのない)若手関係者にアンケートするなどして、調査してみてもどうか。利用料の改訂なども視野に。
		2 横浜市の補助金以外の収入(助成金、協賛金、貸館収入等/その内訳と比率)	全体収入の約30%が補助金以外の収入。助成金(事業委託費)320万円、貸館収入が500万円 ※2025年1月現在		
		3 施設の管理運営に係る費用(管理運営費、人件費で事業に係る経費を除いたもの)に対する年間利用料金収入の割合	約30%		
2	施設の運営・管理	1 施設の利用状況(部屋別稼働率・延べ来館者数及び利用団体数)	49%(スタジオのみ55%) 。時期によって利用状況にかなりムラがあり、1ヶ月単位でのスタジオ利用が減っている。	コロナ前の稼働率にはなかなか戻せていないのが現状である。若いカンパニーの旗揚げ公演の減少や、利用期間の削減(これまで1ヶ月使用していた団体が2週間、など)に伴い、全体の収入も減っている。貸し方を工夫することで、稼働率も戻していきたい。	
		2 施設の管理状況	定期的なメンテナンスや備品の見直しなど、利用者によって快適な状況を維持するよう努めている。		
		3 施設の修繕・改善状況	ホールの装飾が落下する事案があり、撤去及び壁紙の張り替え工事を実施してもらった。		
		4 安全対策・危機管理体制	スタッフ間の情報共有を徹底し、マニュアルの確認を定期的に行なっている。		
3	運営体制・労務管理	1 常勤スタッフ数と役割分担(職能)・勤務体制	常勤1名、非常勤2名、アルバイト8名にて、早番・遅番のシフトを回している。	長く勤めているスタッフが長く、また全員が制作者や俳優として舞台芸術業界にいますので、情報共有やコミュニケーションの場としても機能している。	
		2 年間総支出に占める管理運営費、人件費の割合(常勤スタッフの報酬と待遇等)	年間支出の約80%が、管理運営費・人件費である。人件費は賃上げが難しい状況が続いている。		
		3 スキルアップ・モチベーションアップのための取組状況	スタジオ提供や、クローズドの勉強会へのサポートなど、スタッフの利用希望には柔軟に対応している。		
4	広報・情報発信	1 各事業の効果的な広報活動・情報発信(利用者・市民に向けたものを含む)	子供向けのワークショップの際には、アーティストや参加者同士の情報共有(Instagram、X)や拡散スピードが速く機能的に動いた。	春にアトリウムで実施したワークショップでは大きな反響があり、無料かつ予約などせずとも、子供と一緒に参加できるイベントのニーズを強く感じた。また、定期的に利用している団体への取材の際に、当館にも興味を持っていただき、取り組みも含めた記事を掲載してもらった。	
		2 市の施策に協力した創造都市横浜のPRにつながる広報活動・情報発信	利用者への取材の際に、積極的に会場名を出していただいたことにより、当館のクレジット入りの記事が多く発信された。		
		3 事業のアーカイブの作成、発信(出版物、映像資料等)	開館20周年に向けて、まとめ方や内容の検討を重ねている。		

II 創造性／政策達成評価				評価	
評価軸	評価の着眼点	事業計画(要旨)	実施結果	自己評価	委員会評価
1 舞台芸術を中心とした創造活動の場	1 創作の場の提供 すべての利用者にとって快適・安全で使いやすい・借りやすい稽古場運営を行っているか	状況に応じた稼働率の設定・達成	稼働率は65%を目標としていたが、達成には至っていない。	数字の面では達成出来ていないこともあるが、利用者にとって快適で過ごしやすい環境を提供出来ている。利用中に気軽にスタッフに相談することも出来、近くに来たからとフラツと訪れるアーティストも多い。	創造の場としての稽古場運営 貸し方の更なる工夫や新規利用者の開拓について検討の余地はないか。
		公式サイト・SNSでの情報発信強化	2025年2月現在、WEBサイトのリニューアルに関してデザイナーの提案を保留している。来年度には公開できるよう進めている。		
1 舞台芸術を中心とした創造活動の場	2 創造活動への支援 快適な創作活動を行うために必要なサポートを行うことで、アーティスト達が育ち・続けていくための創造環境が整備されているか	サポートアーティスト制度	サポートアーティストに対しては、ハラスメント防止ガイドラインや相談窓口の案内等を行っている。	サポートアーティスト2組とは、密にやり取りして信頼関係を築きながら、創作や運営に対する助言、人や場の紹介等を行っている。橋本真那は12月に単独公演を実施。台湾の振付家／ダンサーとの意欲的な共同制作は評判を呼んだ。ヒナワタは、WEBを活用して団体の活動背景と理念を発信。両組とも長期的な活動基盤を順調に整えつつある。	急な坂スタジオ× studio oowaなどの新たなパートナーとの連携は良い方向。今後も進めて、新たな可能性を広げてほしい。 ウェブサイトでの情報発信をもう少し活発にする、あるいはSNSを活用するなど、スタジオで行われている活動を映像や動画で広く発信する工夫があっても良いと思われる。 今年度のサポートアーティスト2組は公募で選ばれ、それぞれに独自性があり、今後の展開を楽しみにしている。 今年度のYPAMIには海外も含めプロフェッショナルの参加者が増加した印象がある。より有機的な連携を今後も目指してほしい。
		新規(若手)利用団体へのサポート	丁寧なヒアリングと、申請及び利用期間でのサポートを徹底している。またYPAMフリンジ 参加作品には無償で会場提供を行なった。		
2 舞台芸術を中心とした創造活動に関わる人材の育成	1 アーティスト、観客、批評家など、様々な人材が集まり、学び、交流する場となっているか	相談窓口機能	様々なアーティストから、今後の活動における相談や企画の持ち込みなど、随時対応している。	ワークショップの企画には、障害のある・なしに関わらず、多くの親子連れに参加いただき、アーティストにとっても刺激的で、学びの多い企画となった。アトリウムというパブリックな空間を、本当に居心地の良い環境に出来たと思う。	演劇やダンス、パフォーマンスなど舞台芸術情報やノウハウが集まるわくわくする場所へ。若手の演劇人を惹きつける、育成する場としてさらなる発展を期待したい。 これまで少し苦勞されていた印象のあった子供向けの事業がうまくいっており反響も増えてきていることを評価。 創り手と書き手の交流については舞台芸術界の活性化につながる可能性を秘めていると思われる。来年度の確かな実現を期待。
		創造拠点としてのアーカイブ	利用者が取材を受けた際の紙面やウェブサイトなどの情報提供も増えており、利用期間を終えた後の活動の様子も共有されている。		
2 舞台芸術を中心とした創造活動に関わる人材の育成	1 アーティスト、観客、批評家など、様々な人材が集まり、学び、交流する場となっているか	市内外の他拠点との連携	studio oowa(知的障害のある子供たちの居場所づくり)との協働により有意義な企画を実施することが出来た。		
		ワークショップなど市民に開かれた取組	複数のアーティストが同時多発で目の前にいる子供たちと共にワークショップを立ち上げる企画をアトリウムにて実施した。		
2 舞台芸術を中心とした創造活動に関わる人材の育成	1 アーティスト、観客、批評家など、様々な人材が集まり、学び、交流する場となっているか	創り手と書き手の交流プログラム	予算及び運営体制が整わず、中止となったが来年度以降に実行を検討している。		

総評	約一世代下の新ディレクターへ交代し、当初の目標がまずは達成できた。特徴のある若手のサポートアーティスト2組の今後の育成に注目したい。急な坂スタジオが、新たな才能を見出し応援し、新しい価値を創造する稽古場として更に発展することを期待している。 旧ディレクターがこれまで長年にわたり多大な努力と工夫を重ね、稽古場を着実に運営し、パンデミックも何とか乗り越え、様々な才能豊かなアーティストを送り出してきたことに敬意を表します。	【市の取り組むべき事項】 ・7年度は、体制が刷新されると聞いており、安定した運営となるよう市として必要な支援を行っていく。 ・引き続き、現場と密に情報共有しながら、関係施設や団体、事業との連携促進を支援するとともに、施設の修繕等の環境整備を行っていく。
----	---	---

これまでの総評	R5	・新しいディレクターも人材育成に熱意を持っており、これまで同様もしくはそれ以上の人材育成がこれからも期待できる。 ・様々な時代の要請がある中で、将来の観客とアーティスト、あるいは拠点をつなぐような役割を果たしていただきたい。
	R4	・稽古場運営を着実に進めつつ、急な坂プロデュースやショーケースなどの企画を変えず進めてきているのは評価できる。 ・ディレクター交代のことは、いい意味で注目されている。よき方向にいくように応援している。
	R3	・コロナ禍にあって、オンライン等も活用しつつ、小学校へのアーティスト派遣を無事に行えたことは評価できる。 ・レジデンスアーティスト、サポートアーティストが令和3年度で一旦全員卒業となったが、メンターとして寄り添いながら信頼関係を築いてきた点が評価できる。
	R2	・新型コロナウイルス感染症対策を迫られる中での運営であったが、「ききみみ」などの新たな取組により稽古場としての活動以上の付加価値をつけている。 ・アーティストの面でもきちんと内容を創り出している。首都圏を中心とした演劇界の中でつながっていると感じる。

令和6年度 事業評価シート

【基本情報】

拠点名称	THE BAYS(旧関東財務局横浜財務事務所)	基本方針	①関内・関外地区における創造産業の集積をさらに推進し、これを横浜経済の活性化につなげる ②旧関東財務局の活用を通じて日本大通り地区の賑わい創出を図る
運営期間	平成28年度～令和12年度（9年目／15年間）		
運営団体	株式会社横浜DeNAバイスターズ		

I 運営／経営評価		実施結果	事業評価		
評価軸			自己評価(成果・課題)	委員会評価	
1	<施設の運営状況>	1 文化財の価値を損なわず、建物の歴史を生かした活用を行っているか？	<ul style="list-style-type: none"> ・社内で新たな取り組みが検討される際には、文化財の価値を損なわないようにするために施設管理担当が必ず施設面についても確認を行うようにした。 ・ビジネススクールや子供向けアカデミーを始め、観光イベントなどでもコミュニティスペースを利用した。 ・関内外地区における創造産業の集積のさらなる推進、日本大通り地区の賑わい創出につながる運営を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に引き続き、ビジネススクールの参加者にコミュニティスペースの使用権利を付与し、参加者同士の交流の場として使用するなどコミュニティスペースの最大限の活用に向けて工夫することができた。 ・またドロップインでは観戦前のファンの方にも利用していただきコミュニティスペースや会議室を使ってもらうきっかけを作ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ×クリエイティブという一貫したテーマで文化財を活用する取組を続けたことに加え、日本一という機会をうまく応用し、ショップや飲食店舗、ビジネススクールなどに落とし込むことで、THE BAYS及び横浜市の認知向上に繋がった。
		2 コミュニティスペースがクリエイター・企業等の交流の場として十分利用されているか？			
		3 3階会議スペースがラボ会員等に十分利用されているか？			
		4 事業計画協定書における事業計画を基本に、事業目的に適った運営がなされているか？			
2	<広報活動>	1 施設及び各事業の効果的な広報活動・情報発信が行われているか？	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンなイベント、ワークショップ等の発信コンテンツを定期的開催した。 ・自社HP、拠点HPを中心とするオウンドメディア.SNSを活用した効果的な広報活動、情報発信に取り組んだ。 ・プレスリリース等を通じて外部メディアへのイベント告知などを戦略的に進めた。 ・イベント実施の際はメディアへの働きかけを行い、インターネットメディアにはイベントの様子を記事にしていた。 ・1FのPRコーナーでは、他の創造界隈拠点で行われるイベント等のちらしを配架し、創造都市横浜のPRを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、球団公式SNSやプレスリリース・各イベントの趣旨に合わせたメディアへのアプローチに尽力し、ほぼ全てのイベントで集客に成功し、追加開催したイベントもあった。 また、メディアへの事前のアプローチを戦略的に行うことで、メディア露出の機会も増やすことができた。 	
		2 創造都市横浜のPRにつながる工夫がなされているか？			
		3 施設を法令遵守して維持管理しているか？（特に文化財として）			
		4 施設の変更や修繕について決められた通り報告しているか？			
3	<施設の維持管理>	1 施設を法令遵守して維持管理しているか？（特に文化財として）	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の維持管理では、日常清掃と定期清掃をヒトヒト株式会社へ、設備管理や各種点検は株式会社相鉄企業へ委託し、維持管理に努めた。 ・施設の変更や修繕については、毎月、横浜市にぎわいスポーツ文化局へ維持管理報告書を提出しているほか、利用方法の変更を検討の際にも、にぎわいスポーツ文化局へ事前に相談し、都度、判断を仰ぐようにした。 ・安全対策、安全管理は、ヒトヒト株式会社と相鉄企業株式会社とも都度連携し、法令で定められた点検、検査などを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 建物が文化財であることを十二分に踏まえ、法令に遵守して維持管理することができた。 また、安全対策、安全管理についても怠ってはならず、その結果、これまで無事故で施設の維持管理をできていると自負している。 	
		2 施設の変更や修繕について決められた通り報告しているか？			
		3 利用方法の変更などについて事前に報告・相談をしているか？			
		4 安全対策、安全管理をしっかりとした体制で行っているか？			

II 創造性／政策達成評価		事業計画(要旨)		実施結果	市の取組	事業評価		
評価軸		評価の着眼点				自己評価(成果・課題)	委員会評価	
1	[多様性/バリエーション] 関内外地区において、多様な人材による創造的な産業や創造的な活動をさらに活性化し推進する	1	[創造的な取組であるか？] スポーツ×クリエイティブというコンセプトを通じて、多様な人々による創造的な活動を促進する創造的な事業等を実践できたか	THE BAYSで主催するすべてのイベントでスポーツ×クリエイティブをコンセプトとし、下記3つの目的に沿ってそれぞれのイベントを企画・実施していく。 ・軸1 人材集約・育成のきっかけ作り ・軸2 横浜のまちに参み出していく ・軸3 ベイスターズとしての価値向上	継続的に全てのイベント・企画でスポーツ×クリエイティブをテーマに実施。 昨年に引き続き小学生から大学生までの各世代が参加できる職業体験のプログラムや社会人向けのビジネススクールを開催し、バリエーションを増やしながらか多くの参加者を集めることができた。	<エリア関係者や関係部局等との連携の推進> ・R5に実施した都市整備局との議論を参考に、委員及びTHE BAYSと協議のうえ、THE BAYSの目指す姿及びアウトカム指標を検討し、新しい事業報告シートを作成した。 ・建築局の事業(公共建築を巡るデジタルスタンプラリー)において、THE BAYSの参画を調整し、回遊性向上に寄与した。 ・他課主催事業のチラシ配架を調整し、横浜都心部の賑わい創出に寄与した。 ・創造都市推進課職員もオブザーバーとして日本大通りエリアマネジメント協議会の定例会へ参加した。	<成果> 昨年に引き続き学生向けの職業体験プログラムが人気を博し、回数を増やすことに成功。事業としての土台が出来上がった。 また今年はスタジアム内だけではなく、関内桜通りなどをフィールドとしたまちに染み出すプログラムを通じて「スポーツビジネスを支える」だけでなく、「スポーツを通じてまちに賑わいをもたらす」人材の発掘、育成に繋げることもできており、成果を出すことができた。	・地域とコラボしたい意思は感じるので、今後はさらなる地域展開を実施することを期待する。 ・スポーツマネジメントの人気が出てきているなか、現在のニーズに合った取組ができている。 ・スポーツ×クリエイティブは遠いように思うが、創造限界拠点だからそのスポーツ×クリエイティブを展開できるよう、今後は+Bのデザインなども含め、さらにクリエイティブな活動やアートなどの別の分野との繋がりが生まれることや、他の拠点との連携も期待している。 ・小～高校生の年齢層を取り込むのは重要である。今後も小～高校生向けのプログラムを充実してほしい。
		2	[創造的な人材や事業を育成し、巻き込んでいるか？] 創造的な活動に取り組む人材の育成や、創造的な活動に取り組む企業、大学、市民、行政との交流・連携が展開されているか	社会人向けのビジネススクールと学生向けのアカデミーで各ステークホルダーと連携していく ①社会人向けビジネススクール 引き続き、ビジネスマンやスポーツビジネスに興味がある人材を育成・集積し、スポーツ界への人材流入へ繋げる ②学生向けアカデミー 小学生から大学生までを対象に、横浜のまち・スポーツビジネスに興味を持ってもらい、スポーツを支える人材や将来横浜で創造的な活動に取り組む人材の発掘と育成をする	社会人対象のビジネススクールでは、大学や企業・団体の方を講師に招き、交流・連携を図った。 また過去のビジネススクール生からベイスターズへの入社者が出るなどスポーツ界への人材流入にも繋がった。 子供向けアカデミーでは、小学生から大学生までの各世代向けの職業体験プログラムを実施し、「スポーツをビジネスとして支える」人材の育成にさらに力を入れた。	<にぎわいスポーツ文化局の媒体等を活用した広報協力> ・TimeOutTokyoにて「アートのまちでしかない横浜25のこと」にTHE BAYSを含めた創造都市の取組及びエリアの魅力をプロモーションするガイドマップ・ウェブ特集記事を作成し、インバウンド向けにTHE BAYSをPRすることができた。 ・ACYの広報ツールや横浜市子育て応援アプリ「パマトコ」にTHE BAYSの事業を掲載した。スポーツファンだけではなく、アートに関心のある層や市内の子育て層、インバウンドに、THE BAYSを知ってもらう機会を創出した。	<課題> 今度職業体験プログラムを広げていくにはさらに他の拠点や横浜市との連携が不可欠となってくる。	
		3	[創造的なPJが生まれ、THE BAYS外にアウトプットされているか？] 創造的な取組を通じて、新たな産業やプロジェクトが創出され、実際に関内外エリアないしは横浜都心部エリアに展開されているか	THE BAYS主催のイベントは関内外エリアや横浜都心部エリアで継続的に開催し、新たな産業として成立するように事業を成長させる	関内桜通りや横須賀のグラウンドをフィールドとしたイベントを実施するなどTHE BAYSから外にアウトプットする取り組みができた。			
2	[波及効果/インパクト] 本施設を活用を通じて日本大通りをはじめとした横浜都心部の賑わい創出、及びエリア全体の価値向上を図る	1	[エアリアマネジメント/エアリアブランディング的な波及効果] 日本大通りを中心とした横浜都心部の事業に参加・協力をし、エアリア価値の向上に寄与しているか	①日本大通りエアリアマネジメント協議会への参加、そのほか日本大通り沿いのイベントに参加する ②テラス、中庭を活用し、またTHE BAYSを利用した各種メディアでの露出効果による集客をきっかけとして賑わいを作る +Bや&9、地下1階では野球ファンだけでなく、日常的にTHE BAYSを使ってくれる来館者を増やし、エアリア価値向上に寄与する	テラス・中庭を使用した集客によって賑わいを作り、野球ファンだけでなく、日常的にTHE BAYSを使ってくれる来館者を増やし、エアリア価値向上に寄与することができた。 また、ロケ地の誘致を引き続き行い、聖地巡礼など、賑わいの創出に繋がられている。 また今年はファンフェスや日本一のパレードなどでTHE BAYSも連携し、日本大通りのエアリアブランディングに波及効果をもたらすことができた。	<建物管理> ・建物の経年劣化が進んでおり、文化財としての劣化調査を実施した。また、教育委員会事務局生涯学習文化財課と今後の保存活用の在り方を検討中であり、利用者の安全及び文化財の保全に努めている。 ・日々雨漏りや硝子破損などの建物の不具合に現場対応し、利用者が安心して利用できるよう努めている。	<成果> 昨年に引き続きTHE BAYSをドラマやCMの撮影で利用されており、エアリアブランディングにも寄与している。これにより、+Bや&9の利用にもつながっている。 また今年はファンフェスやパレードでの連携はこれまでにない大きな賑わいを生み出すことができた。	・横浜市の公共空間活性化の面でスポーツ文化は重要。ランニングイベントなどで公共空間を活用していることは評価できる。今後はさらにウォーターフロントエリアの活性化も意識していただけるとよい。
		2	[クリエイティブ/ウェルビーイングへの波及効果] スポーツ×クリエイティブという視点から、創造界隈の形成や関内外の活性化による市民のQOL向上にも活動を広げているか	①観光ツアーでは引き続き、THE BAYS.日本大通りという枠を超えて関内外や横浜のまちを楽しんでいただくプログラムを創り出す ②+B、&9、地下1階では日常的に市民のライフスタイルに寄り添った商品・プログラムを開発する	観光ツアーでは、THE BAYS発のイベントとして収益化をすることができさらに実施の回数を増やすことができた。 引き続き球場にベイスターズファンの人に足を運んでもらうべく、野球イベントと運動したメニューの開発や選手の記録に紐づいた商品の販売などで、来館者数増に努めている。 またASCスタジオ、2Fロッカーを活用したランニングイベントの実施し、横浜スタジアム、横浜公園、日本大通り、象の鼻公園、山下公園などTHE BAYSの外を会場としたイベントも広げることができた。		<課題> 試合日やイベントに準じた一過性の来館者数だけではなく、継続的にTHE BAYSに足を運んでもらえる施策を検討していく必要がある。	

<p>総評</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在のニーズに合った取組ができており、プログラムも以前より充実している。小学生から高校生までの年齢層を取り込むのは重要な取組である。 ・創造界隈拠点ならではのスポーツ×クリエイティブの展開に向けて、今後はさらにクロスインダストリーな取組や他の拠点との連携、公共空間の活用などを期待している。 ・横浜の豊富な公共空間を活性化するためにはスポーツ文化は重要。既にランニングイベントなどで公共空間を活用していることは評価できる。今後はさらにウォーターフロントエリアの活性化に取り組むことを期待している。 	<p>【市の取り組むべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BAYSの活動が、旧関東財務局だけではなく、地域やウォーターフロントに展開できるよう市がサポートする必要がある。(ex. 駅前の旧市庁舎事業や市の遊休公共空間との連携) ・新たな報告シートの活用にあたっては、数値化することだけではなく、プロセスの見える化ができるよう、拠点と対話を重ねる必要がある。
-----------	---	---

<p>これまでの総評</p>	<p>R5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営開始から8年、各事業を取捨選択していく中で、いい成果が出てきている。 ・ビジネススクールをはじめ、CSLについては芽が出てきた。このまま延長線上の事業を続けるのではなく、特徴的な事業に集中するなど、THE BAYS全体の新たな展開も考えられる時期に来ている。 ・市も含めて、現在の事業のその先、ビジョンやプログラム参加者の道筋を考えていけると良い。 ・この場所が何を生み出しているのか、事業全体で考えた上で、THE BAYS全体で一つのコンセプトを打ち出せると良い。
	<p>R4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業のノウハウによって、戦略的に事業を実施している。 ・多様な事業を実施している一方で、民間企業の単独の取組のように見えている。個々の取組の相関図などにより、全体の目標に対する各事業の位置づけを意識できるとよい。 ・横浜スポーツタウン構想への関わりについても検討できるとよい。
	<p>R3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総じて様々な事業に精力的に取り組んでいただいている。報告の仕方として、事業に参加した方の変化や街への波及効果などを盛り込んで、BAYSの取組により、どのようなインパクトがあったのかを示してほしい。 ・開館から5年経過したので、これまでの成果や当初想定されなかったことなどを踏まえ、THE BAYSの取組が関内外の住民あるいは横浜市民に対してどのような価値が提供できているのかといった観点から市とともに評価軸を検討してほしい。
	<p>R2</p>	<p>コロナ禍において、事業自体が中止・延期となる施設も多い中で、オンラインや運営団体の工夫を通して、活動を継続し、かつ発展させてゆくことができた点はよかったと思われる。今後、こうした活動の認知・発信を強化するためにも、公民連携を通じて各方面からアプローチするとともに、横浜スポーツタウン構想を始めとして、地域や地域のクリエイター、他の拠点等との連携を通じて活動を発展させていきたい。</p>
	<p>R1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4年目を迎えて、活動としては非常に活発化しているが、創造産業に関する活動のアウトプットが不足している。外部との連携も踏まえた創造産業の集積の促進と発展に向けて頑張してほしい。 ・内部の活動を外に見える化していくためにも、中庭の活用など、官民連携してほしい。

成果指標の測定に係る 検討状況について

第1回創造界限形成推進委員会

令和7年5月30日

◎昨年度の委員会で、創造界限拠点形成事業のK P Iについて議論。

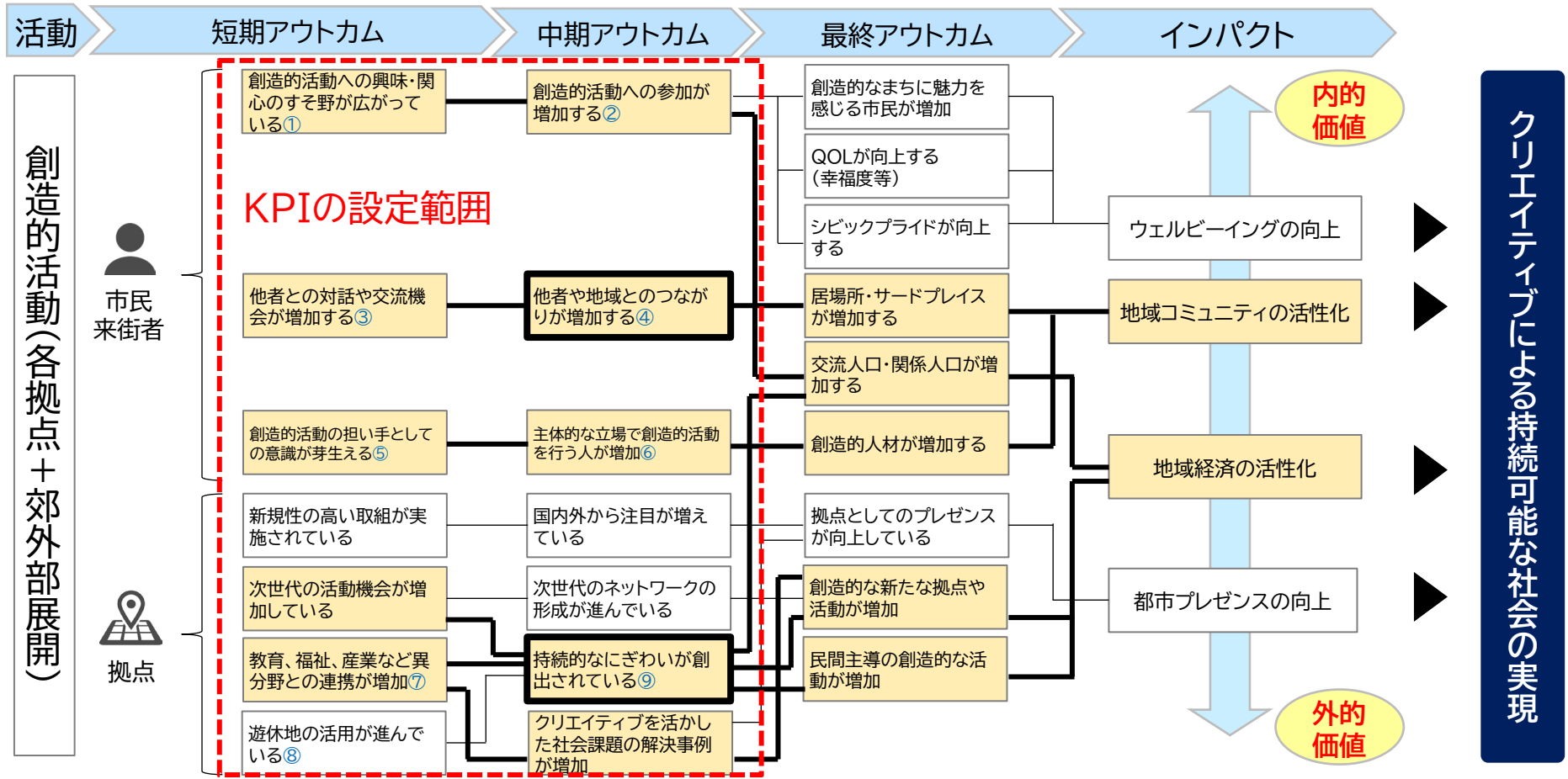
「市が行う調査」と「各拠点が行う調査」の組み合わせで測定。

◎横浜市が行う調査に関しては、既存の統計や他の部署が行う調査で把握が可能か精査中。他で把握できない項目を、創造都市推進課が独自に調査する方向で検討。

◎委員会へのご報告内容と精査した内容のすり合わせとともに、予算や8年度以降の継続性等も考慮した上で、調査項目を再整理。
次回の委員会で実施方針（案）をご説明・ご議論いただく予定。

前回委員会資料（抜粋）
に番号を追記

【参考】創造界隈拠点形成事業のロジックモデル



【参考】創造界限拠点形成事業のKPI案

■市民・来街者のアウトカム

アウトカム	KPI	測定方法
創造的活動への興味・関心が向上する①	各拠点の認知率	独自調査
	各拠点の訪問意向率	独自調査
創造的活動への参加が増加する②	各拠点の来場者数・参加者数の合計	各拠点にて集計
	各拠点の推奨率	独自調査
他者との対話や交流機会が増加する③	1年間で創造的活動により、他者との対話や交流機会が増えた人の数	独自調査
他者や地域とのつながりが増加する④	1年間で創造的活動により新たなつながりができた人の数	独自調査
創造的活動の担い手としての意識が芽生える⑤	創造的活動の企画運営に対する意欲や積極性が高まる	独自調査
	企画運営の方法に対する理解が深まる	独自調査
主体的な立場で創造的活動を行う人が増加⑥	創造的活動の企画運営に関わっている人が増えている	独自調査

【参考】創造界限拠点形成事業のKPI案

■拠点のアウトカム

アウトカム	KPI	測定方法
教育、福祉、産業など異分野との連携が増加⑦	各拠点で実施している異分野との連携事業数やプログラム数	各拠点にて集計
遊休地の活用事例の増加⑧	遊休地を活用した拠点数	18区調査、ACY調査委託
持続的になぎわい創出⑨	総来場者数に占める初来場者数の割合	旧第一+象の鼻+新高島での調査
	事業費に占める公費割合	象の鼻+新高島
	民設民営の拠点の数	18区調査、ACY調査委託
	民間企業と連携した事業・プロジェクトの数	各拠点にて集計

令和7年度の委員会について

第1回創造界限形成推進委員会

令和7年5月30日

令和7年度の年間スケジュール

時点更新版

